



環境・社会報告書2016

株式会社ダイセキ環境ソリューション



しゅ は り

守破離

当社は、今年度で第21期を迎え、次なる段階を目指して大きく成長する段階にあると言えます。本報告書を作成するにあたり、当社が成長して行く様子を表す言葉として、「守破離」をテーマといたしました。「守破離」とは、剣道の訓えの1つであり、3つの成長段階を示しています。「守」はこれまでの土壌汚染対策事業に注力していた段階、それに加え新たな環境問題の解決に挑戦し、新規環境ビジネスを開拓する「破」の段階、そして、環境リバリューストラクチャー創造企業としての地位を確立する「離」の段階です。この「破」と「離」を目指し、社員一丸となって目標を達成したいという想いが込められています。

(写真：環境事業本部 名古屋事業部 管理課 天野 靖子)

編集方針

本報告書は、ステークホルダーの皆さまに当社の環境および社会的責任に対する考え方と取り組みをご理解いただく事、そして当社全社員の意識向上を図る事を目的として発行しています。また、例年通り報告書の作成は当社社員のみで行い、より会社の雰囲気や伝わるものを目指して作成いたしました。

毎年皆さまからいただいたご意見を参考に紙面や取り組みの向上を図っております。巻末にアンケートがございますので、ご一読いただいた後でご意見やご感想がありましたら、是非お聞かせください。

発行日 平成28年8月31日

対象期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

対象範囲 株式会社ダイセキ環境ソリューション
名古屋本社、東京本社、関西支社、九州支店、東北支店、名港事務所、西日本営業所、名古屋リサイクルセンター、横浜リサイクルセンター、大阪リサイクルセンター、仙台共同処理施設、バイオエナジーセンター、名古屋トランシップセンター
株式会社グリーンアローズ中部本社工場、名港工場
株式会社グリーンアローズ九州

作成部門 環境・社会報告書2016作成委員会

連絡先 企画管理本部 総務部 総務課
Tel. 052-611-6350 FAX. 052-611-4022 E-mail : info@daiseki-eco.co.jp

目次

はじめに

トップメッセージ	1
ビジョン2025	3
会社概要	4
事業の歩み	5

事業紹介

事業背景	6
事業俯瞰図	7
事業紹介	9
特集1 当社における環境分析部の役割	13
特集2 エコクレイウォール工法を用いた 土壌・地下水汚染を管理する土地 運用方法	14
特集3 女性社員へのインタビュー	15

環境マネジメント

環境マネジメント	16
マスパランス	17
環境測定データ	18
環境負荷低減への目標と実績	20
環境負荷低減への取り組み	20

社会性報告

コンプライアンス	23
教育	24
安全衛生	25
社会貢献活動	27
働きやすい職場づくり	29
コミュニケーション	31
第三者コメント	33
用語集	34
環境・社会報告書2015アンケート結果、 編集後記	35
アンケート用紙	

トップメッセージ



株式会社ダイセキ環境ソリューション 代表取締役社長

二宮利彦

はじめに

この環境・社会報告書は2009年から発行を始め、今年で8年目となりました。例年、その年に入社した新入社員を中心に若手社員で作成しており、ステークホルダーの皆さまにお伝えしたい内容に合わせて年々改善を重ねております。昨年の報告書では環境省および一般財団法人地球・人間フォーラムが主催の「環境コミュニケーション大賞」において、優良賞をいただく事ができました。これもひとえに、当社が如何なる状況においても温かいご支援をくださったステークホルダーの皆さまのお陰でございます。また、昨年は売上・利益共に過去最高値を更新する事もできました。皆さまには重ね重ね、お礼申し上げます。今期は、世界的景気減速等、視界不良の年になりそうですが、常に前を向いて、より一層の努力を続けてまいります。

近年の社会情勢は目まぐるしく変化し、日本国内だけでも様々な出来事がありました。リーマン・ショック後の不景気から始まり、2011年には東日本大震災、そして今年の4月には熊本地震の発生があり、多くの方が被災されました。当社でも復興の一助になればと思ひ、微力ながら支援をさせていただいております。これらのような悪い事ばかりが起きたわけではありません。昨年には、来る2020年夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、またこの5月にはサミットが伊勢・志摩において開催されました。良くも悪くも、この短い期間に日本という国が大きく変化している事を身をもって感じております。このような変化に柔軟に対応し、当社の持てる技術を駆使し、環境問題の解決に取り組むと共に、ご支援して下さっている皆さまに価値を還元していく所存でございます。

本報告書は創業20年目にあたる、2015年度の実績を中心に編集しております。当社の成長を環境・社会の課題解決に役立てるためにも、皆さまにはご高覧いただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

昨年を振り返って

昨年は「ビジョン2025」を創り、取り組み始めた年であり、創業20年目の節目の年でもありました。中期計画の始めとしては、良いスタートが切れたと実感しております。当社の目指す先には、“社員とその家族が幸せになれる会社、この会社で良かったと思えるような会社”としての姿があります。そのためには社員がただ働くのではなく、社員全員で目指していけるような、目印となるものがが必要です。そのような目印としての「ビジョン2025」を創り、協力して目印に向かって仕事に取り組む事が出来ました。また、昨年度当社はありがたい事に、とても繁忙な1年でございます。忙しい状況だからこそ、社員全員で協力し合うと共に、様々な問題点や改善点が明らかになりました。繁忙な1年を乗り越えた事で、現状の能力を理解し、克服すべき課題が明確になり、今後のための良い経験が得られたと考えております。そういう点でも、今後新たな工夫や前向きなチャレンジをする足がかりとなる、良い年であったと思います。

「ビジョン2025」のこれから

昨年度は「ビジョン2025」をスタートさせた最初の1年となりました。先にも述べたように、初年度として良いスタートが切れたと感じております。しかし、「ビジョン2025」を創った本当の意味までは、まだまだ浸透していないように思います。「ビジョン2025」は単なる達成目標ではなく、会社が真に目標とする「社員とその家族が幸せになれる会社」を実現するための目印です。「ビジョン2025」は、10年後（2025年）の当社のあるべき姿で、具体的には「環境リバリューストラクチャー」創造企業として、世の中の環境問題を解決していく会社になる事を目標としています（「環境リバリューストラクチャー」の概念は、次項で少

し触れさせていただきます)。このように、会社のありべき姿を創りましたが、それだけではなく、会社が目標を叶えた時、その会社の中で「社員一人ひとりが幸せとやりがいを実感しながら働いている」という姿を、全員が想像できるようになって、初めてビジョンが浸透したと言えると考えています。そのような夢のある形でビジョンを浸透させるには、時間と弛まぬ努力が必要です。自分の幸せが増える、だから会社の目標に貢献していきたいと全員が思えるようになれば、この会社はすごく良い会社になると思います。

変革のとき

当社の事業は、捨てられてしまうようなものを、私たちの工夫で価値あるものに生まれ変わらせる事です。当社は、その事を「環境リバリュー」、また、そのような循環構造（仕組み）を「環境リバリューストラクチャー」と定義し、この仕組みを出来るだけ多く創造する事で、持続可能な循環型社会の実現に貢献する事を目指しております。現在では、土壌汚染対策事業、乾電池・蛍光灯・バッテリーリサイクル事業、バイオディーゼル燃料製造・販売事業、PCB事業、廃石膏ボードリサイクル事業を行っていますが、これから先も現事業に限定する、という事はありません。より多くの環境問題に対して“当社の提案によりこの環境問題を解決できるのではないか”といった画期的な提案を行っていきたいと思います。そのためにも、第21期を迎える今期は変革の時です。次に来る大きな波を自分たちの力で乗り越えるため、設備投資等を行っております。

すが、現状の能力では少数精鋭での規模の拡大と先に述べた社員の幸せは両立しません。そのためには、効率的な制度の拡充や、技術力の向上が急務となります。今後会社として成長し、ステークホルダーの皆さまを含めた社会全体に貢献するため、私たちは変革に挑み、改革を続けて行きます。

環境・社会報告書2016について

今年度は、この環境・社会報告書のテーマを『守破離』といたしました。これは、『守』を現在の土壌汚染対策事業が主軸である状態と見なし、第二の創成期を迎えた昨年からの、新しく事業を展開し成長する『破』の段階に突入したと考えたためです。私たちは今後、課題点の解決に取り組み続ける事で『破』の段階を乗り越え、その先にある『離』の段階・・・「環境リバリューストラクチャー」創造企業としての地位を確立し、循環型社会・持続可能な社会の構築へ貢献する会社、そして社員が幸せになれる会社となる段階へ到達できるよう、努力を続けてまいります。

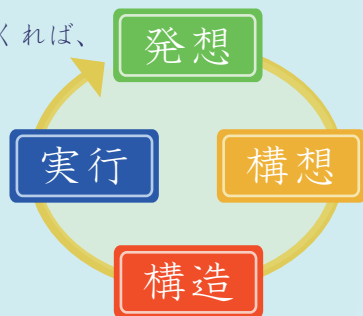
本報告書の中には、当社の事業紹介や多くの社員の言葉も載せております。この報告書を通して、当社の取り組みと雰囲気を多くのステークホルダーの皆さまに、より深く理解していただけたら幸いです。

最後となりましたが、平素よりご協力いただきありがとうございますステークホルダーの皆さまには多大な感謝を申し上げます。これからも皆さまからの期待に応えるべく、一層精進してまいります。

経営理念

社会環境の変化と共に、企業と社会との関わりが強まる中、高い企業倫理に従って透明で公正な事業活動を行う事が、企業の社会的責任として求められております。ダイセキ環境ソリューションは「倫理憲章・行動規範」ならびに「環境方針」を定め、当社に働くすべての役員・社員がこれらを理解し遵守する事が、広く社会から信頼され、お客様に選ばれる企業となる原点であると認識し、常に誠実で責任ある行動をとるよう、努力してまいります。

一つの**発想**が湧いてくれば、それに対して種々の**構想**を練り、実行のための組織、その他の**構造**を組み立てる、そして**実行**する



行動指針-クレド-

ビジョン実現のためには日々の行動が重要だと考え、行動指針となるクレドを社員全員で考え策定しました。9つのクレドには、全社員の未来に込めた多くの思いが詰まっています。このクレドを実践する中で、会社と私たち自身の成長を目指します。社員一丸となって目標やビジョンに向かって、愚直に努力してまいります。

1. あいさつ
2. 整理整頓
3. チームワーク
4. お客様
5. 挑戦
6. 主体性
7. 約束
8. コンプライアンス
9. 安全

9つのクレド

私たちは、明るく元気に、あいさつをします。
私たちは、4S（整理・整頓・清掃・清潔）を率先して行います。
私たちは、力を合わせて、仕事をします。
私たちは、常にお客さまの目線で考え、行動します。
私たちは、スピード感を持って、新しいことに挑戦し続けます。
私たちは、一人ひとりが自ら考え、主体的に行動します。
私たちは、決めたことは徹底して守ります。
私たちは、法令や社会規範を遵守し、社会からの信頼を大切にします。
私たちは、常に安全を、すべてのことに優先します。

ビジョン 2025

私たちの使命
-MISSION-

私たちは、『社会的に不要になったり、負の環境影響を与えるものに対し、工夫をこらし、再び価値をつける新しい仕組み（環境リバリューストラクチャー）』を創造して、環境課題を解決します。



当社はこれまで、主に土壌汚染問題に取り組む環境フロンティア企業として、広く環境問題全般の解決に挑み成長してまいりました。その間もステークホルダーの皆さまからは変わらぬ温かいご支援をいただきました。今後も持続的に成長し、より良い企業へと発展するため、昨年当社が目指すべき10年後の姿として「ビジョン2025」を策定いたしました。「ビジョン2025」の実現を目指す事で、これまで以上にステークホルダーの皆さまからの信頼と期待に応えられる企業として成長し続けたいと考えています。この使命を果たし続けるため、私たちは次いで3つの目標を定めました。

3つの目標

①土壌ビジネスにおけるシェア拡大と市場創造

②新規環境ビジネスにおける開拓者の地位確立

③価値観を共有し、社員一丸で動ける組織の構築

目標達成後の姿

社員の働く幸せと安定的な生活を維持し、それぞれの夢や目標の達成を支援すると共に、ステークホルダーの方々や社会の期待に応えていきます。

具体的な取り組み

土壌事業エリアの拡大

土壌ビジネスのエリアを拡大するために、広島に西日本営業所、東北に仙台共同処理施設を設立いたしました。

新規事業拡大

新規事業として、地盤改良材製造工場である（株）グリーンアローズ中部名港工場、低濃度PCB積替え保管施設である名古屋トランシップセンター（NTC）を新設いたしました。



▲グリーンアローズ中部名港工場

クレド策定・クレド実践研修

平成26年にビジョン実現のため、日々の行動指針となるクレドを社員全員で考え策定いたしました。9つのクレドには、社員全員の未来に込めた想いが詰まっています。このクレドをより深く実践していくために、「7つの習慣®」リーダーシップ研修を基にしたクレド実践研修に全社員が取り組んでいます。また、この研修内容を自分のものとするため、朝礼後社員同士で復習しています。



▲上：朝礼時の勉強会
▲右：私たちのクレド



会社概要

商号 株式会社ダイセキ環境ソリューション
 (東京・名古屋証券取引1部証券コード1712)

代表者 代表取締役社長 二宮利彦

設立 平成8年11月1日

資本金 22億4,843万8,700円

従業員数 143名 (男性 96名、女性 47名)
 (グループ合計、平成28年2月末現在)

業務内容 土壌汚染調査および対策工事、汚染土壌処理
 産業廃棄物処理および収集運搬、環境分析
 水銀リサイクル、環境コンサルティング、
 廃石膏ボードリサイクル、地盤改良材製造、
 バイオディーゼル燃料製造販売、
 PCB廃棄物収集運搬およびコンサルティング

所在地

本社 名古屋市港区船見町1番地86
 URL <http://www.daiseki-eco.co.jp>

東京本社 東京都港区芝浦3丁目14番19号8階

関西支社 大阪市大正区南恩加島7丁目1番82号

九州支店 福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘2丁目7番15号

東北支店 仙台市青葉区芋沢字青野木223番地3

西日本営業所 広島市南区的場町1丁目1番21号
 クリスタルタワー903号室

名港事務所 (事業推進部所在地：平成28年2月～)
 名古屋市港区築三町3丁目1番3

<リサイクルセンター>

横浜 横浜市鶴見区生麦2丁目2036番地50

名古屋 愛知県東海市新宝町29番地1

大阪 大阪市大正区南恩加島7丁目1番82号

<バイオエナジーセンター>
 愛知県東海市浅山3丁目203

<名古屋トランシップセンター>
 愛知県弥富市楠3丁目24番地2

<共同事業汚染土壌処理施設>
 (仙台環境開発(株)と共同、以下仙台共同処理施設)
 東北支店と同住所

グループ会社

株式会社グリーンアローズ中部
 愛知県東海市南柴田町ホノ割213番地7
 URL <http://www.daiseki-eco.co.jp/gac/>

株式会社グリーンアローズ中部名港工場
 名港事務所と同住所

株式会社グリーンアローズ九州
 九州支店と同住所
 URL <http://www.daiseki-eco.co.jp/gak/>

ダイセキグループ

株式会社ダイセキ
 名古屋市港区船見町1番地86
 URL <http://www.daiseki.co.jp>

北陸ダイセキ株式会社

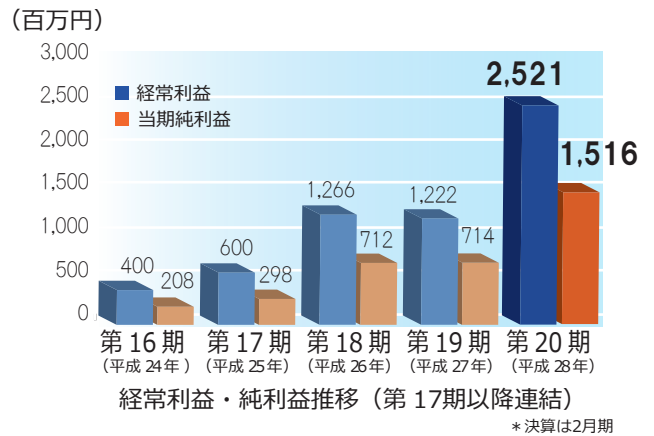
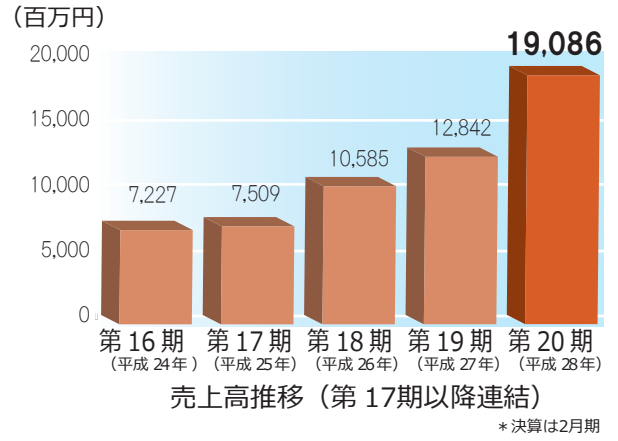
株式会社ダイセキMCR

システム機工株式会社

(株)グリーンアローズ九州

九州支店

関西支社/
 大阪リサイクルセンター



事業のあゆみ

当社はリサイクル事業を通して、多様化する環境問題に対する解決策（ソリューション）を提供してまいりました。これからも既存事業の拡大を図ると共に、新規事業を立ち上げ、日本を代表する「環境リパリューストラクチャー」創造企業を目指します。

平成 8 年 株式会社ダイセキのエンジニアリング部門を分離独立し、「株式会社ダイセキプラント」を設立

平成 11 年 **土壌汚染対策事業**を開始
蛍光灯リサイクル事業を開始
「株式会社ダイセキ環境エンジ」に改称

平成 14 年 ISO14001 認証取得

平成 16 年 東京証券取引所マザーズに上場
横浜リサイクルセンター操業開始
名古屋リサイクルセンター操業開始
「株式会社ダイセキ環境ソリューション」に改称

平成 19 年 大阪リサイクルセンター操業開始

平成 20 年 東京・名古屋証券取引所 1 部に市場変更

平成 21 年 株式会社グリーンアローズ中部で、**廃石膏ボードリサイクル事業**を開始

平成 22 年 九州支店開設

平成 23 年 東北支店開設

平成 24 年 BDF 事業部を立ち上げ、**バイオディーゼル燃料製造販売事業**を開始

平成 25 年 **仙台津波堆積物減溶化事業**を開始
株式会社グリーンアローズ九州操業開始
ビジョン創造プロジェクトを開始

平成 26 年 PCB 事業部を立ち上げ、**PCB 廃棄物収集運搬およびコンサルティング事業**を開始
ため池等汚染拡散防止対策実証事業を開始

平成 27 年 株式会社グリーンアローズ中部名港工場操業開始
仙台共同処理施設操業開始
名古屋トランシップセンター操業開始
西日本営業所開設

平成 28 年 **ブラウンフィールド事業**を開始

事業背景

土壌汚染問題

土壌が私たちの目に触れる事のない地中で有害物質により汚染された状態を土壌汚染といい、有害物質を扱う工場等から地中に漏れ出す事で発生します。汚染を放置してしまうと、土壌や地下水中の有害物質によって健康を害する危険があります。平成15年に「土壌汚染対策法」が施行され、その基準に基づいて適正な処理を行う事が義務付けられています。

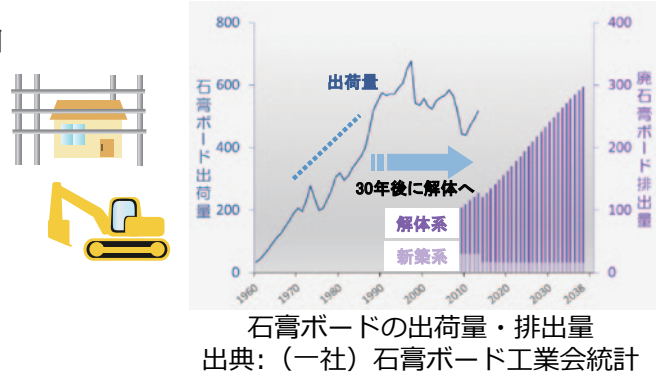
→土壌汚染対策事業 (p.9) へ



石膏ボードの需要増加に伴う将来の廃棄量増加

石膏ボードは、住宅や学校等の壁や床に多用される、なくてはならない建築材料です。高度経済成長期から石膏ボードの使用量は増加傾向にあり、将来的に大量の石膏ボードが廃棄されると予想されています。しかし、現在の処理施設は処理量の小規模なものが多く、加工後のリサイクル先の確保が困難です。

→廃石膏ボードリサイクル事業 (p.10) へ



廃食用油の有効利用とバイオ燃料への期待

食用油は揚げ物等に利用された後、廃食用油として排出されます。家庭からは一般廃棄物として、食品工場や学校の食堂等からは産業廃棄物として排出されます。一方で、環境中へのCO₂排出による地球温暖化対策として、廃食用油をバイオ燃料へリサイクルする事が期待されています。

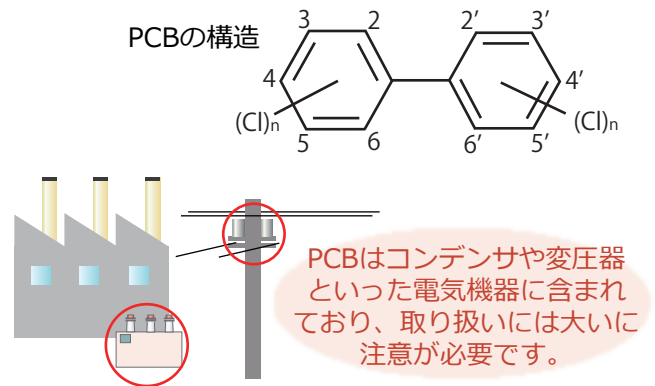
→バイオディーゼル燃料製造販売事業 (p.11) へ
→環境測定データ (p.18, 19) へ



PCB特別措置法の制定

PCB(ポリ塩化ビフェニル)は、燃えにくい、電気を通さない、金属を腐食しにくい等の特徴をもつ化学物質であり、高電圧がかかる電気機器の絶縁油として広く使用されています。しかし、人体に有害な物質である事が判明し、現在では世界規模で全廃に向けて動いています。日本ではPCB特別措置法が制定され、PCB含有機器の処分が定められています。しかし、使用をやめたPCB含有機器の処理や運搬には厳しい規定がある事から、保管や処分に困っている方が多くいらっしゃいます。

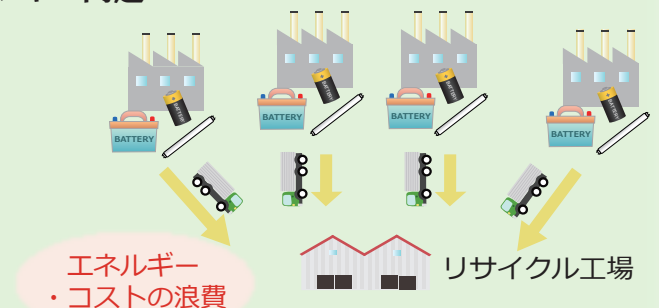
→PCB事業 (p.11) へ



蛍光灯・乾電池・バッテリーリサイクルのエネルギー問題

私たちの身近な製品の中にも、リサイクルできる物が隠れています。工場で使用される蛍光灯や乾電池、そして車のバッテリー等には、ガラス・鉄くずの他、水銀や鉛といった資源が含まれています。これら廃棄物は工場でリサイクルできる形にするまでに多くの処理工程を必要とするため、エネルギーやコストが余計にかかってしまいます。

→蛍光灯等リサイクル事業 (p.12) へ



てんぷら油で車が走る！

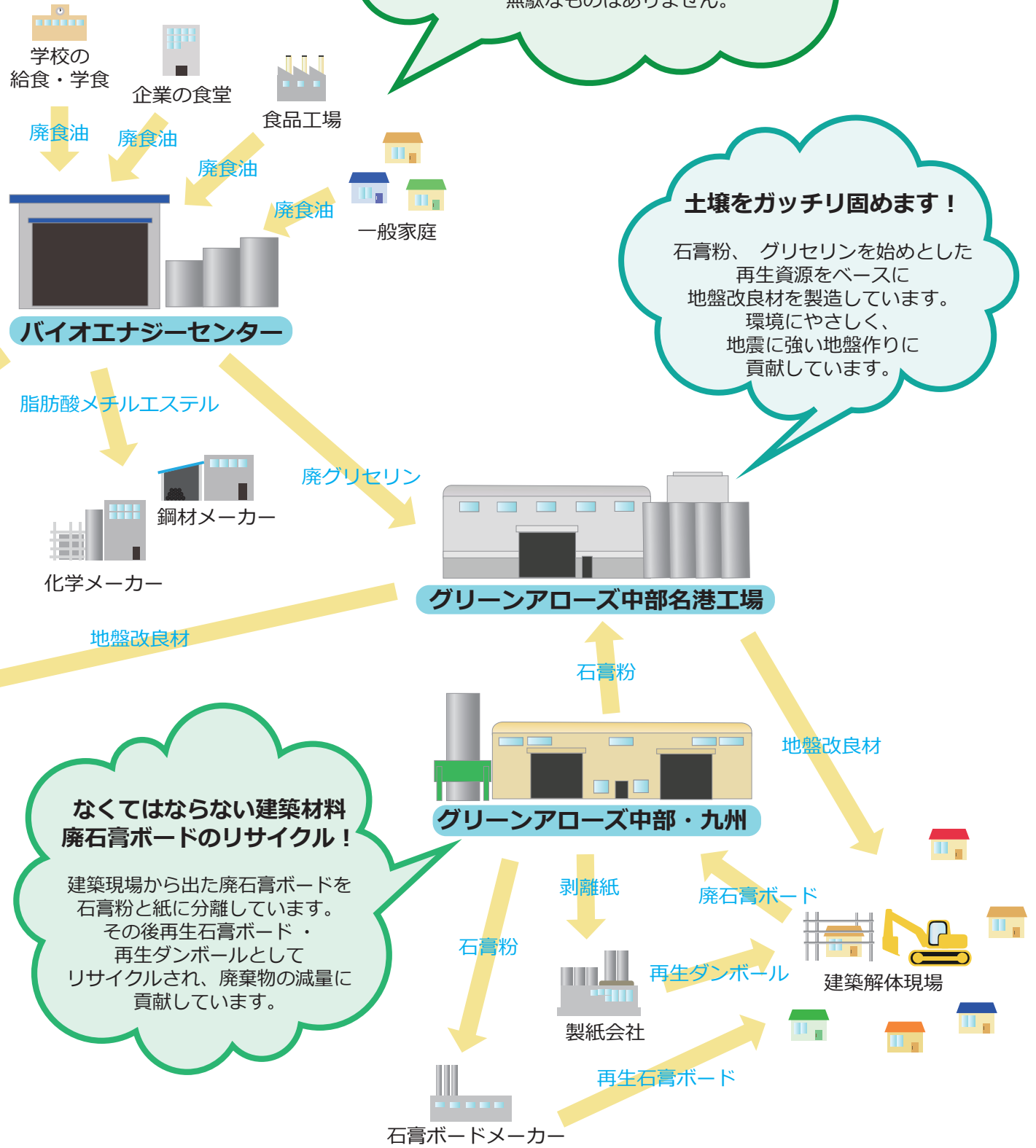
植物由来の廃食油からバイオディーゼル燃料（BDF）を製造しています。カーボンニュートラルな燃料で地球環境中のCO₂削減に貢献しています。BDF製造時の副産物までリサイクル！無駄なものはありません。

土壌をガッチリ固めます！

石膏粉、グリセリンを始めとした再生資源をベースに地盤改良材を製造しています。環境にやさしく、地震に強い地盤作りに貢献しています。

なくてはならない建築材料 廃石膏ボードのリサイクル！

建築現場から出た廃石膏ボードを石膏粉と紙に分離しています。その後再生石膏ボード・再生ダンボールとしてリサイクルされ、廃棄物の減量に貢献しています。



土壌汚染対策事業

当社は、土壌汚染対策に対して必要とされる、コンサルティング、調査、分析、対策・措置・処理を一貫して行う「One-Stop Solution Company」です。この体制により、細やかで素早い対応、低コスト化、情報漏えいの防止、そして高度で多様な提案を実現し、高い技術力をもって環境問題に取り組んでいます。

One-Stop Solution

コンサルティング



コストや工期、対象地の状況等を考慮しつつ、お客様のご要望を満たす最適な調査・対策計画をご提案します。また、行政との折衝・報告まで責任をもって対応します。

例

- ・土地取引に伴う土壌調査
- ・工場等のCSR作成に伴う自主調査
- ・工場閉鎖に伴う土壌汚染対策法や条例に基づく土壌調査

営業、技術、分析のスタッフが協力する事で、多様なニーズや変化に合わせた最善の提案を可能にします。

土壌調査



資料等調査から現地でのサンプル採取まで、当社のスタッフが対応します。

調査の手順

- ①フェーズ1（地歴調査）
資料等から土地履歴を調べ、汚染の有無を判断します。
- ②フェーズ2（概況調査）
表層のサンプルを分析します。
- ③フェーズ3（詳細調査）
汚染が発覚した場合、より詳細に調査します。
- ④対策の検討
対策の要否や方法を検討します。

環境分析



計量証明事業所認定を受けた当社のラボにて、採取したサンプルの分析を行います。（特集1で紹介→p.13）

対策・措置・処理



様々な処理方法を使い分け、汚染土壌の浄化や封じ込めを行います。

措置例

- ①オンサイト処理
汚染土壌をその場から動かさず、現地で浄化や封じ込めを行います。
- ②掘削除去処理
汚染土壌を掘削し、当社汚染土壌処理施設（リサイクルセンター）へ搬出します。

リサイクルセンターでの処理

- 化学脱着
VOC（揮発性有機化合物）の抽出、分解を行います。
- 洗浄処理
有害物質を除去、洗浄した土は建設資材として再利用されます。
- セメント原料化
汚染土壌や産業廃棄物中の異物を除去し、セメント原料として再利用します。

Solution 土壌の問題を当社がすべて解決！価値ある土壌を社会にお返しします。

-INTERVIEW-

土壌汚染対策事業の“破”を考える

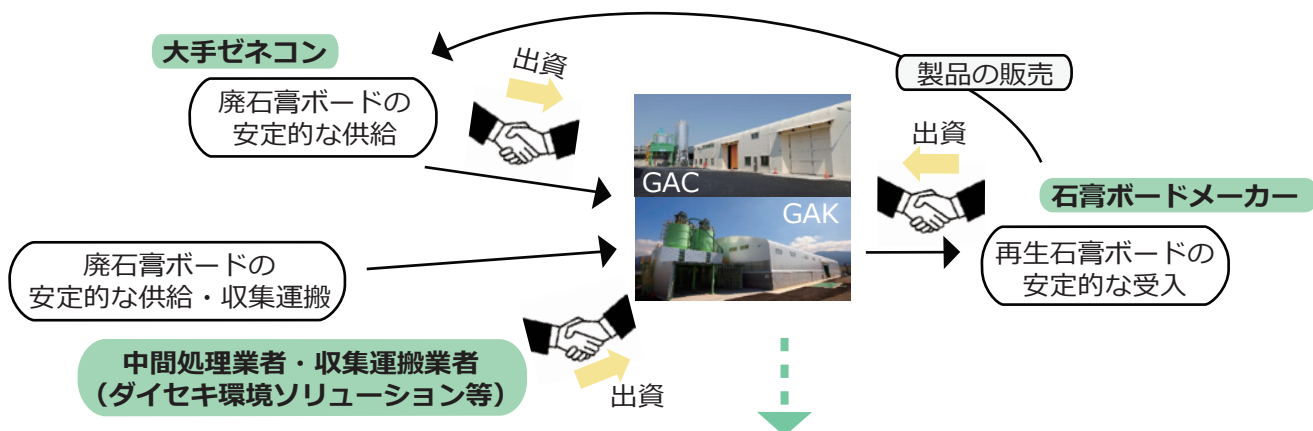
今までの土壌汚染対策事業は、土地売買に基づく完全除去という方法が主流でした。しかし、最近ではお客様の求めるニーズが多様化しており、提案力を求められるようになってきています。そこで、自分自身そのニーズをしっかりと把握できるようお客様の声に耳を傾けるようにしています。今後は土壌汚染対策だけではなく、案件毎に当社ができる事を提案する事が、「困った事はダイセキ環境ソリューションに相談しよう」というお客様との信頼関係構築に繋がって行くと思っています。



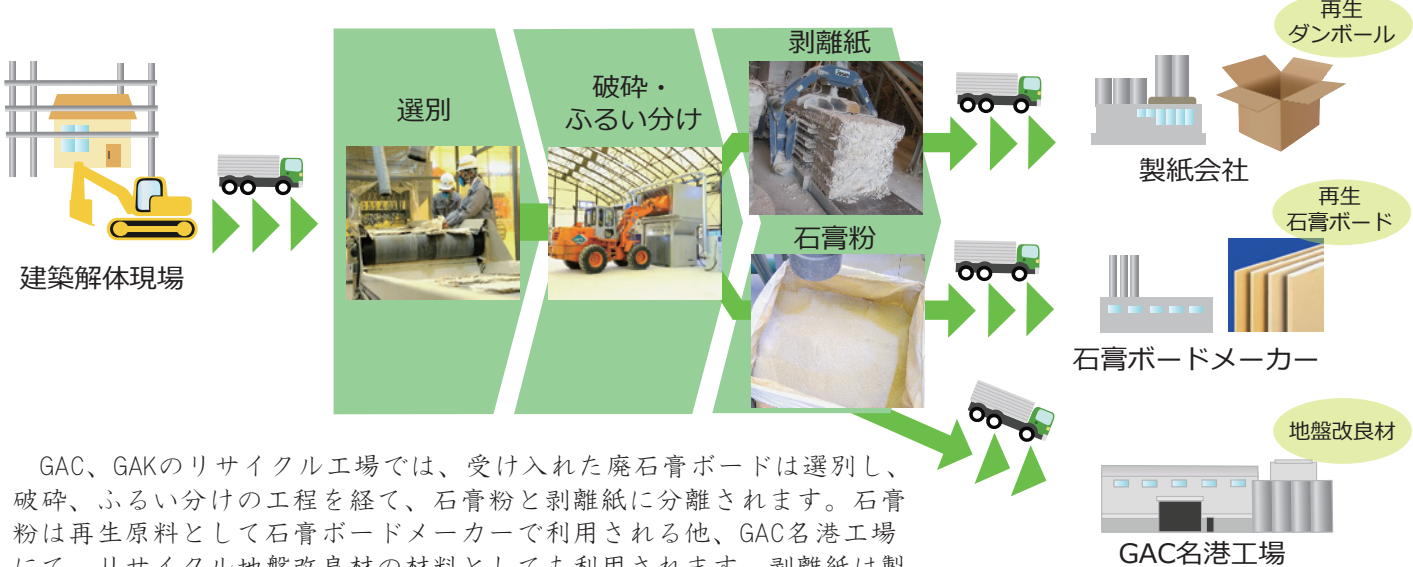
環境事業本部
関西事業部
営業課
高橋 豊史

廃石膏ボード リサイクル事業

当社グループ会社の（株）グリーンアローズ中部（GAC）、（株）グリーンアローズ九州（GAK）では、建物の解体に伴って廃棄された廃石膏ボードを回収し、再び石膏ボードの原料としてリサイクルしています。この事業は以下に示すような排出元、中間処理業者、受入先の共同出資から立ち上げられ、事業共同体として強い結束力を有しているため、確実に効率的なリサイクルルートを実現しています。



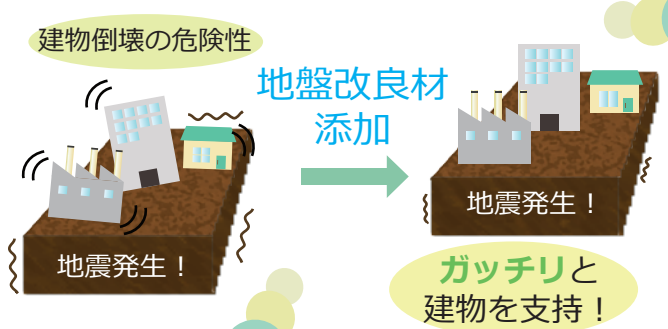
廃石膏ボード排出元・当社・受入先のコンソーシアム



GAC、GAKのリサイクル工場では、受け入れた廃石膏ボードは選別し、破碎、ふるい分けの工程を経て、石膏粉と剥離紙に分離されます。石膏粉は再生原料として石膏ボードメーカーで利用される他、GAC名港工場にて、リサイクル地盤改良材の材料としても利用されます。剥離紙は製紙会社にて段ボール原料としてリサイクルされます。

地盤改良材製造事業

地盤改良材とは、地震の際に液状化現象等が発生しやすい軟弱地盤を固化するものです。GAC名港工場では、廃石膏粉を始めとした再生資源がベースのリサイクル地盤改良材を製造しています。



当社地盤改良材事業の特色

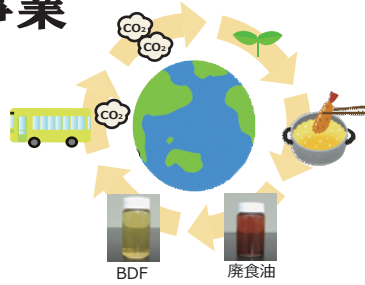
- ①「循環型社会の実現」に貢献
半分以上が再生石膏等の再生資源
- ②製造時のCO₂発生量を60%以上削減
製造プロセスに加熱・冷却がなく、CO₂排出は電力消費のみ
- ③厳格な品質管理
当社計量証明事業所（愛知県第268号）を保持
各種原材料、製品の分析、品質管理を確実に実施



地盤改良材"GAシリーズ"はあいくる材*認定商品です！
 *あいくる材：
 資源循環型社会の構築を目指し、愛知県の公共工事でリサイクル資源を積極的に活用するためのリサイクル資源評価制度です。

バイオディーゼル燃料 製造販売事業

当社では、外食産業や家庭からの廃食油（廃てんぷら油）を回収し、バイオディーゼル燃料（BDF：バイオディーゼルフューエル）を製造しています。BDFの使用によって発生するCO₂は、原料である植物が大気中から吸収したものであるため、地球環境中のCO₂は増加した事になりません。当社では、製造したBDFを販売するだけでなく、一部の社用車や工事車両の燃料に用いる事で、化石燃料の節約やCO₂排出量の削減に貢献しています。



廃食油排出元・当社・BDF受入先のコンソーシアム



各社メリット

- ・ 確実なリサイクル先の確保
- ・ CSR向上、他社との差別化 (社会・顧客からの支持獲得)
- ・ 自社車両へのBDF利用

- ・ 廃食油からBDFまでの安定確実なリサイクルルート
- ・ 安定的な廃食油確保で原料品質の均一化

- ・ CO₂排出ゼロカウント (改正省エネ法)
- ・ 高品質BDFの安定的利用
- ・ CSR向上 (公共工事等受注拡大)

PCB事業

PCB（ポリ塩化ビフェニル）特別措置法の制定によって、PCB含有機器を所有する事業者には、保管等の届出、期間内（平成38年度末まで）の処分、譲渡の制限等の様々な責務が生じます。また、処分には法規制が多く、複雑な行政対応が必要となります。当社では、PCB含有機器の処分までのプロセスを、行政対応を含めて一貫して対応しています。また、大型PCB含有機器の解体や漏えい事故、不法投棄対処等PCBに関する様々なトラブルにも対応します。

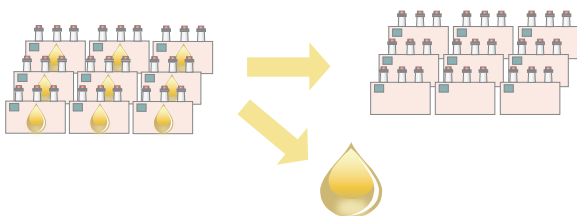
PCB廃棄物処分までのコンサルティング



名古屋トランシップセンター

① 収集・一時保管

② 抜油



当社では、PCB含有機器を効率よく運搬するため、保管施設（名古屋トランシップセンター）にて、積替え保管を行っています*。回収したPCB含有機器を一時的に保管し、PCB含有油を抜油して筐体と分けた上で処分場に運ぶため、効率よくPCB含有機器を運搬、処理する事ができます。PCB含有機器の運搬を効率化する事で、運搬にかかるエネルギー削減にも貢献しています。

* 低濃度PCB廃棄物に限る

蛍光灯・乾電池・バッテリー リサイクル事業

当社では、廃蛍光灯や廃乾電池等の水銀含有物を各工場から回収し、中間処理を行った後、水銀リサイクルを行う野村興産（株）に輸送しています。また、鉛が使われている廃バッテリーを鉛のリサイクルを行う（株）ダイセキMCR（グループ会社）に輸送しています。



新しい取り組み ～ブラウンフィールド 買取・再生スキーム～



日本国内には「ブラウンフィールド」と呼ばれる有害物質の存在により未利用となっている、または価値の下がった土地が存在します。ブラウンフィールドが発生する事によって、汚染土壌が放置されるだけでなく、再開発や土地利用の阻害等様々な悪影響が生じます。

当社では買い取ったブラウンフィールドに、これまでに培った技術とノウハウで浄化や措置を施すことで、再び価値を生み出し社会に還元する事業（リバリュー）に挑戦しています。

-INTERVIEW-

“チャレンジ！チャレンジ！！”

当社グループは2025年には売上・利益の半分を汚染土壌事業以外のビジネス（以下、新規事業）で創り出す事を目標としています。当然、現在連結売上の約90%を占める汚染土壌事業も成長させる計画ですから、非常にチャレンジングな目標である事がお分かりいただけると思います。

その際のキーコンセプトは、やはり「環境リバリューストラクチャー」の創造です。1社ですべてを抱え込むのではなく、パートナーと一緒に負の環境影響を持つものに工夫を凝らし再び価値を付ける新しい仕組みを創造して、環境問題の解決を目指します。

現在展開している新規事業は、パートナーやお客様のご支援に支えられてますます順調に推移しています。但し、チャレンジにはリスクが付きものです。高い目標に向けた今後のチャレンジの中では、大きな失敗をする事もあるでしょう。しかし、私たちはチャレンジをやめません。なぜなら、新しく発生する環境問題を解決して社会に貢献する事は、私たちの使命であり存在理由だからです。

これからも私たちの新規事業へのチャレンジに、是非ご注目ください！



専務取締役
兼 環境事業本部
本部長
山本 浩也

特集 1

当社における

環境分析部の役割

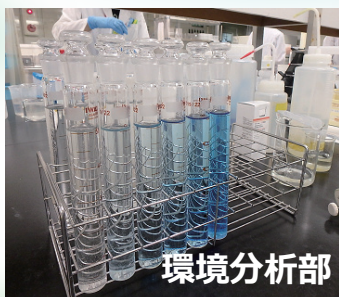
土壌汚染対策事業だけでなく、当社の様々な事業に関連し、分析業務を一手に引き受けている、環境分析部の仕事について紹介します。

土壌汚染対策事業

- ・調査、工事、処理の際に採取した試料の特定有害物質の分析
- ・セメントリサイクルのための成分判定

バイオディーゼル燃料製造販売事業

バイオディーゼル燃料の品質管理項目の分析



PCB事業

PCB含有機器中のPCB濃度分析

廃石膏ボードリサイクル事業

石膏粉の品質管理のための分析

リサイクル地盤改良材製造事業

土壌改良材の品質確認や効果確認

各事業部から

- ・廃棄物の特定管理判定
- ・各工場の排水・地下水分析

仕事でやりがいを感じるのは、どんな時ですか？

社内からの依頼が多く、分析結果が他部署の業務に大きく影響します。苦勞した案件で、他部署の業務がスムーズに進められた時は、会社やお客様への貢献に繋がり、とてもやりがいを感じます。また、大型で短納期の案件を部署全体で協力しあって、納期内に終わらせる事ができた時、皆の成長も感じられ、とても充実した気持ちになります。

環境分析部の職場の雰囲気はいかがですか？

総勢19名の大所帯で、年齢層もバラバラです。女性が7割以上を占める部署は、分析部だけではないでしょうか。メンバーも個性的な方が多く、日々笑いが絶えません。分からない事を教え合ったり、困っている人がいると手を貸したりと、とても協力的で温かい職場ですね。

仕事で苦勞する事は、どんな事ですか？

分析の仕事はルーチン作業と思われがちですが、様々な性質の試料を正しく見極め、限られた時間の中で、より正確な値に近い測定結果を導く事はとても大変な作業です。また、分析装置の管理について、高い知識と技術が要求されます。装置が正常に動くように、日々管理を徹底していますが、トラブルが起こった時は本当に大変です。



今後、どのような部署にしていきたいですか？

社内外から頼られる部署となるように、一人ひとりが深い知識と技術を持ち、また、そうなるよう努力する人たちが多くいる部署となって欲しいです。また、当社では他部署でも化学知識が求められます。人材育成の場として環境分析部で化学の基礎を学び、他部署でより活躍できる人材の育成をする事ができればと思います。部署としては、現状の分析業務の品質を向上させ、土壌汚染対策事業でよりシェアを広げられるよう貢献できたらと思います。一方で、一般の分析会社ではできないような、実験分析や新規事業立ち上げに化学的な観点から貢献できればと思います。

特集 2

エコクレイウォール工法 を用いた土壌・地下水汚染を 管理する土地運用方法

当社は平成28年1月より神奈川県旧工場用地(敷地面積:約14,000m²)における汚染土壌に対する措置として、ライト工業株式会社のエコクレイウォール(以下ECW)工法を用いた、土壌汚染を流出させないよう維持・管理して土地運用していくための遮水壁工事を行っています。本工法の遮水壁による汚染土壌の対策は、当社では二度目の措置となります。

* 遮水壁

: 汚染土壌の対策工事の1つで、水を通さない壁を地中に築く事で、汚染土壌により汚染された地下水の拡散を防ぐ方法である。

背景

本案件における対策措置の提案として、土壌・地下水汚染のすべてを浄化するのではなく、汚染を管理していく手法が検討されていました。当該区域の汚染の特徴として、汚染深度が非常に深く、また地下水汚染も認められた事から、遮水壁工法が適切であると考えられました。この遮水壁工法では主に鋼矢板工法や、ソイルセメント工法が広く用いられていますが、当該区域の状態や手法の適用性、およびコスト等の観点から、当社で過去にも行った実績のあるECW工法を用いる事となりました。

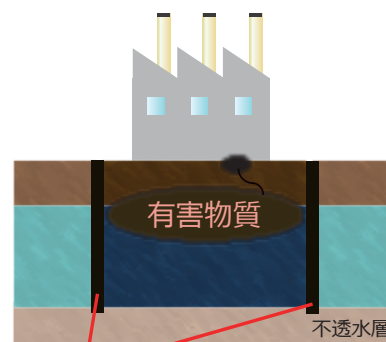
ECW工法概要

ECWは現地の土壌を主体としているため、安定性に優れており、また変形追随性を有し地震の衝撃にも強いという特徴が挙げられます。さらに、鋼矢板工法の場合と異なり、遮水壁を作る際に土壌の掘削除去が不要であるため、排泥がほとんど発生しません。そして、排出過程においてCO₂の排出もセメント系工法と比較して1/5程度まで減少できる事から、環境負荷が大きく抑えられるという事が特徴です。



▲ECW

(ライト工業(株)ホームページより抜粋)



エコクレイウォール

▲ECW工法

(エコクレイウォール工法協会資料を基に作成)



環境事業本部
東京事業部
技術課
早瀬 雅彦

-INTERVIEW-

対策・措置の“破”を考える

土壌汚染の対策措置としては、一概に掘削除去だけではなく、原位置浄化や不溶化等様々な手法が存在しています。当社ではお客様や行政のニーズに最大限お応えできるよう努めており、本件では遮水壁による拡散防止・維持管理という手法を用いる事となりました。

お客様のニーズや行政からの要求に合わせて入念な協議・説明を行い、今後も様々な技術を積極的に取り入れていきたいと考えています。

特集3

女性社員への インタビュー

当社では男性社員が多く働いていますが、その中でも女性社員は男性社員に負けなくらい活躍し、輝いています。ここではその中のお二人を紹介させていただきます。

仕事の大変な事ややりがいは何ですか？

調査現場は広さや立地、建物の有無や作業中の工場内等様々なケースがあります。そのため、現場毎にそれらの条件を考慮し、安全かつ効率的に作業を進める方法を考え、実行するのはとても難しい事です。

また、実際の現地では条件が変わっていたり、イレギュラーな事が起きたり想定外の事も発生するので、迅速で的確な対応が求められます。

この仕事を始めて9年目になりますが、まだまだ立てた計画がすべて上手くいくわけではありません。だからこそ、様々なことを乗り越えて調査を終えた時、やり切った満足感とやりがいを感じることができます。

環境事業本部 名古屋事業部 技術課 小林 知子



強みは何ですか？

何でもとにかくやってみる事です！

今後目指す姿は

お客様のご要望や相談内容に合わせた調査や工事のご提案ができるようになっていきたいと思えます。そのためにも、知識や経験をもっと身に付けていきたいです。



環境事業本部 PCB事業部 営業課 池田 あんず



仕事の大変な事ややりがいは何ですか？

お客様から、「助かったよ、ありがとう」と言われたり、お仕事の中で新しい事を知ったり気づいたりした時やりがいを感じます。

今は軌道に乗ってきた当事業部も、配属された当初は新規事業部である事もあり、お客さまやお取引先との繋がりもなく、試行錯誤でした。

現在はお陰様で色々な方に助けられ、嬉しい事ですが一度にお問合せをいただいて、帰るのが遅くなってしまう事があります。

強みは何ですか？

物怖じしないこと、好奇心が強い事でしょうか。あとは、常にお客様の事を考えて動くようにしています。

今後目指す姿は

事業部一丸となって、お客様のお見積り依頼から処分完了まで更にスムーズに、また引き続きお客様のご要望にお応えしながらご対応できるようにしていきたいと思えます。PCBは処分期限のある廃棄物ですので、その後は何かまた別の、環境にプラスになる、おもしろい事業ができるといいですね。

環境マネジメント

環境保全を主要業務とする当社において、環境マネジメントは最重要課題であると捉えています。当社は地球環境問題のソリューション事業を推進するフロンティア企業としてISO14001を取得し、下記の環境方針を定めています。この方針の基、事業活動により生じる環境影響を持続的に改善するシステムを構築しています。

環境方針

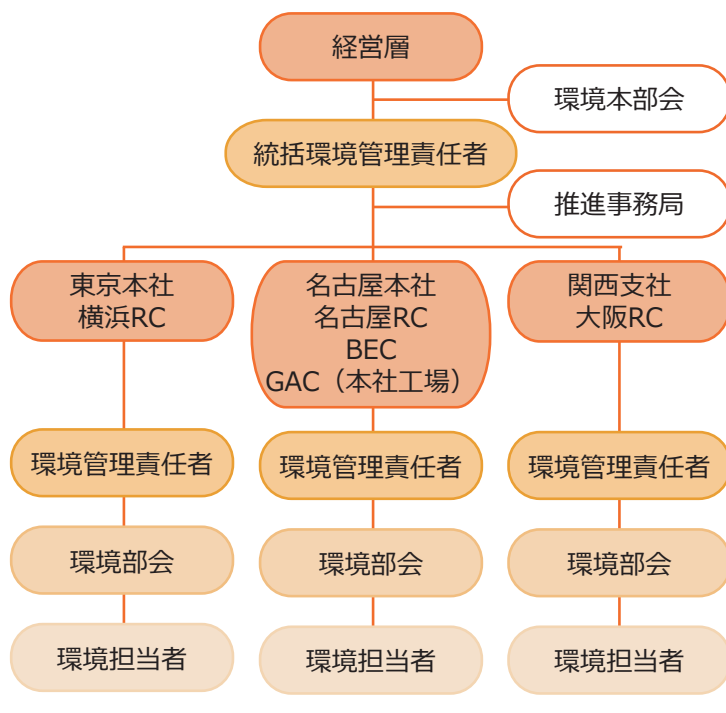
1. 地球温暖化防止に資するため、当社の事業活動で消費するエネルギーで特に電気および燃料の使用量の削減に努めます。
2. 土壌汚染調査、汚染土壌および産業廃棄物の収集運搬・中間処理の作業を適正かつ安全に行うと共に、不必要な無駄を改善して作業の効率化を図ります。
3. 当社で発生する廃棄物の抑制を図ると共に、受け入れた汚染土壌および廃棄物のリサイクル率を高めるために処理技術の向上に努めます。
4. 土壌汚染調査、汚染土壌および産業廃棄物の収集運搬・中間処理の中で、粉塵等の環境負荷の低減および環境汚染の予防に努め、これらの継続的改善を図ります。
5. 環境側面に関する法規制のほか、お客様とのお約束事項、および当社が定める自主管理基準値を順守します。
6. 当社および当社に関連する組織の環境目的・環境目標を設定し、見直しを行います。

平成18年5月15日 制定
平成28年3月15日 改定

代表取締役社長 **二宮利彦**

ISO14001の認証取得について

現在、当社の環境マネジメントシステムは、経営層の下に統括環境管理責任者を置いて、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）のPDCAサイクルを効率的に回せる組織体制を組んでいます。



▲環境マネジメントシステム組織体制

ISO14001の登録状況

平成14年	(株)ダイセキ名古屋事業所の関連事業所として認証登録 (JQA-EM2116)
平成18年	東京本社、名古屋リサイクルセンター (RC)、横浜RC、関西支社を登録 JQA-EM2116からJQA-EM5648に分割登録
平成20年	大阪RCを登録
平成21年	(株)グリーンアローズ中部 (本社工場) を当社関連事業所として登録
平成25年	バイオエナジーセンターを登録

本活動報告内容はISO14001の集計を元にしており、左記事業所を対象として集計しています。

マスバランス

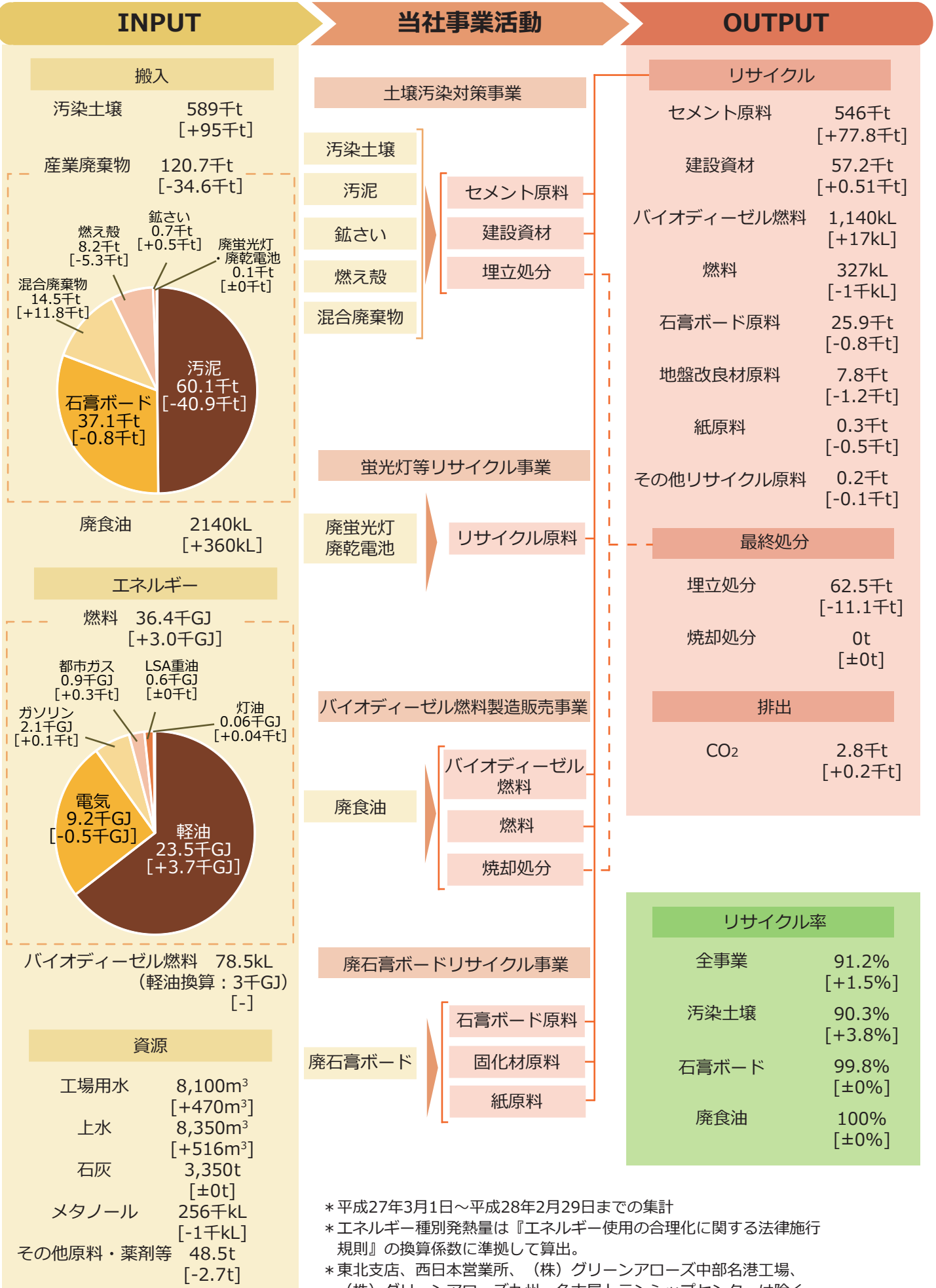
当社はマスバランス（物質収支）を明らかにする事で、事業活動に伴う環境負荷の把握に努めています。環境負荷の傾向を数値化し、目標を掲げて環境負荷低減に取り組んでいます。

はじめに

事業紹介

環境マネジメント

社会性報告



*平成27年3月1日～平成28年2月29日までの集計
 *エネルギー種別発熱量は『エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則』の換算係数に準拠して算出。
 *東北支店、西日本営業所、(株)グリーンアローズ中部名港工場、(株)グリーンアローズ九州、名古屋トランシップセンターは除く。

環境測定データ

当社は事業活動に伴うCO₂排出量を把握し、その削減に積極的に取り組んでいます。また、事業所別に環境データを測定し、環境影響を持続的に改善する指標としています。

事業活動に伴うCO₂排出量

平成27年度は、CO₂総排出量が前年を上回り、一昨年と同水準となりました。しかしながら、売上当たりのCO₂排出量は昨年を大きく下回り、ここ5年間で最も少ない約160kgまで減少しています（図1）。次項ではエネルギー別CO₂排出量に着目し、CO₂総排出量減少の理由について説明します。

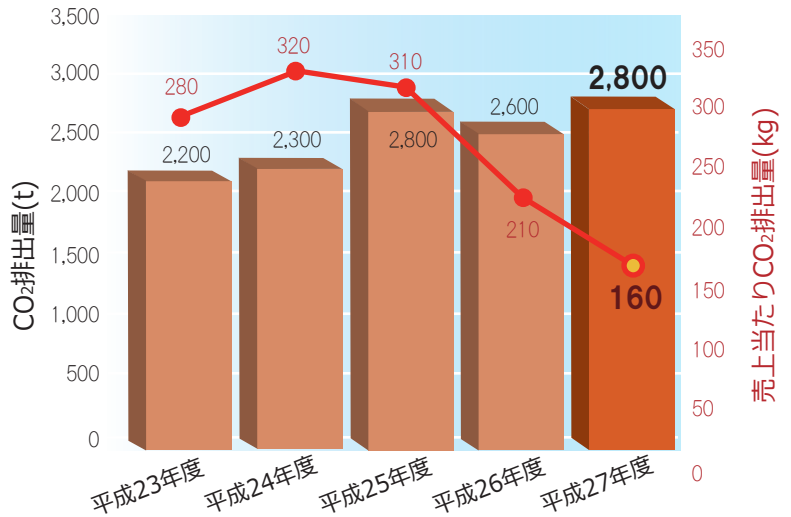


図1 事業活動に伴うCO₂総排出量

エネルギー別CO₂排出量

当社では、電気と軽油が主なCO₂排出源となっています（図2）。この2つは工場を操業する上で欠かせない資源です。

今年度のCO₂総排出量が前年度と比較して増加した原因として、軽油使用料が増加した事が挙げられます。これは、ご依頼数が増えた事による工場の重機の稼働時間が増加した事と、名古屋リサイクルセンター、(株)グリーンアローズ中部(GAC)におけるバイオディーゼル燃料(BDF)使用量が減少した事によります。しかし、空調設備を新しいものに取り換えたため、空調調節の効率が上がり、電気使用量は抑える事ができました。

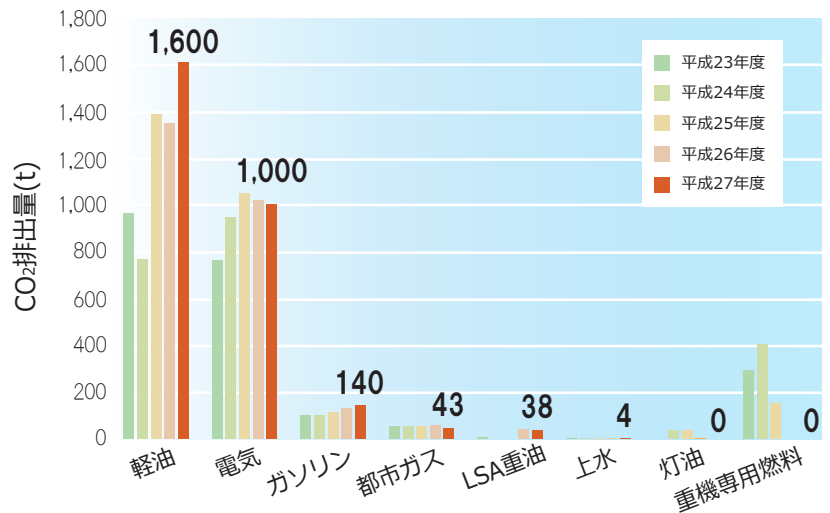


図2 エネルギー別CO₂排出量

委託輸送に係るCO₂排出量

当社が他業者様に委託して汚染土壌や産業廃棄物を運んでいただく過程でもCO₂は発生します（図3）。これは当社が直接排出するCO₂総量（図1）の約5倍となっており、その差が年々大きくなってきている事を意識する必要があります。

委託輸送に係るCO₂総排出量が近年増加すると共に、輸送効率も悪化傾向が続いています。輸送効率が改善されていた平成25年度では、輸送効率の良い船舶による輸送の割合が増えていたためでしたが、昨年は内陸の依頼が増え、輸送効率の悪い長距離トラックによる輸送の割合が増加した事が原因と考えられます。

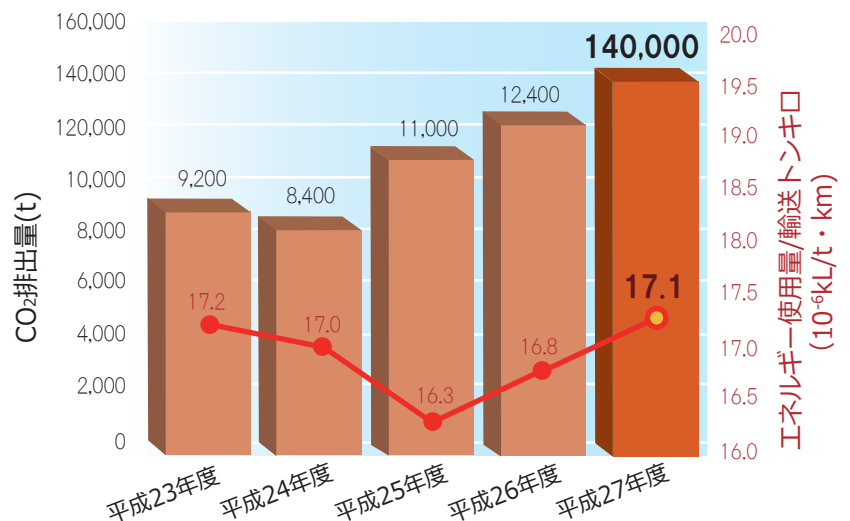
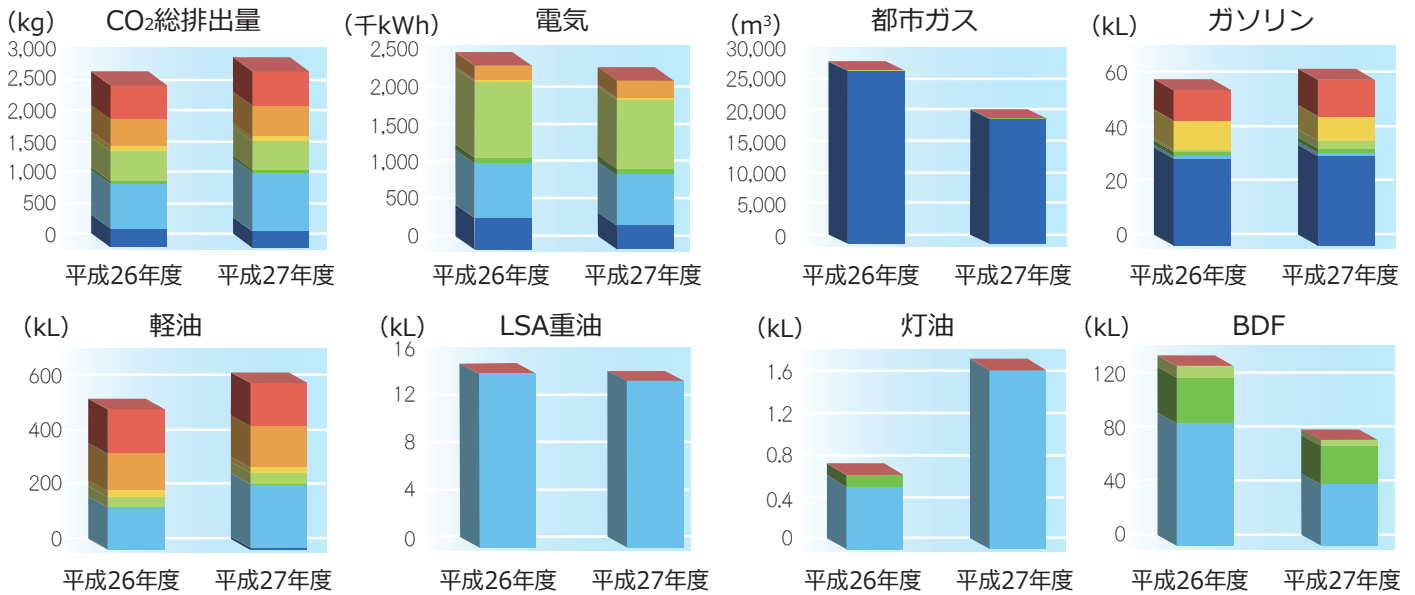


図3 委託業務に係るCO₂総排出量

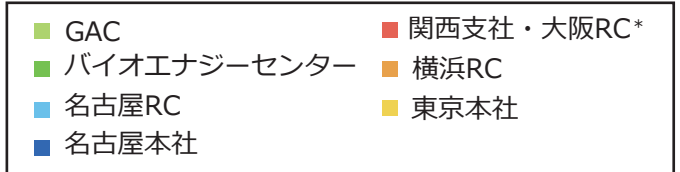
(図3注) エネルギー使用量/輸送トンキロ (単位はリットル)
 : 1tのものを1km運ぶためにかかるエネルギー (重油換算)
 これが低い程燃費が良く、輸送効率が良い事を表す。
 算出方法は「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)に準ずる。

事業所別CO₂排出量とエネルギー使用量

当社は事業所別に環境データを測定し、環境影響を持続的に改善する指標としています。



* 関西支社と大阪リサイクルセンター (RC) は同じ敷地内に建物があるため、まとめて集計しています。



排水水質データ

事業所	①	②	pH		BOD (mg/L)		COD (mg/L)		SS (mg/L)		n-Hex (mg/L)	
			基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値
名古屋RC	①	5.8~8.6	7.9	4	-	-	200	150	5	1		
	②		8.0	160	160	11	29	<1				
	③		7.9	6	-	-	32	<1				
横浜RC	①	5.8~8.6	7.9	-	130	1	160	9	5	<1		
	②		7.7	-	24	<5	<1					
大阪RC		5.0~9.0	7.5	<1	-	-	600	<5	5	<1		

BOD : 生物化学的酸素要求量 COD : 化学的酸素要求量 SS : 浮遊物質 量 n-Hex : 鉱油類含有量

大気汚染物質データ (大気汚染防止法および土壌汚染対策法に基づいた項目)

事業所	カドミウムおよびその化合物 (mg/m ³ N)	塩素 (mg/m ³ N)	塩化水素 (mg/m ³ N)	フッ素、フッ化水素およびフッ化ケイ素 (mg/m ³ N)	鉛およびその化合物 (mg/m ³ N)	窒素酸化物 (volppm)
名古屋RC	<0.002	<1	<1	<1	<0.002	<13
横浜RC	<0.001	<0.2	<0.2	<1	<0.01	2
大阪RC	<0.002	<1	<1	<1	<0.002	<13
許容限度	1	30	700	10	20	250

事業所	1,2-ジクロロエタン (volppm)	ジクロロエタン (volppm)	水銀およびその化合物 (volppm)	テトラクロロエチレン (volppm)	トリクロロエチレン (volppm)	ベンゼン (volppm)	PCB (ng/m ³)
名古屋RC	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<10
横浜RC	<0.5	<0.5	<0.005	<0.5	<0.5	<0.1	<10
大阪RC	<1	<1	<0.002	<1	<1	<1	<10
許容限度	-	-	-	-	-	-	-

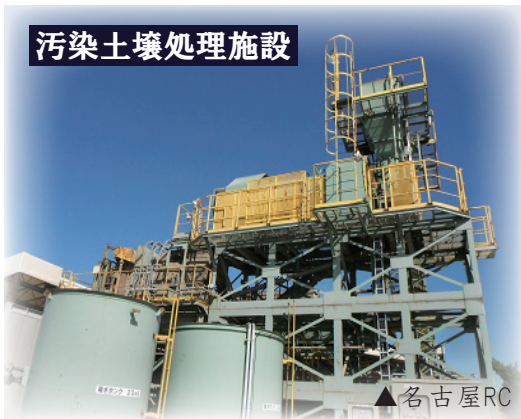
環境負荷低減への目標と実績

事業活動に伴う環境負荷の低減は事業者の責任です。各テーマに目標を設定し、環境負荷の低減のため取り組んでいます。平成27年度の目標と実績は下表の通りです。

目的	対象	平成27年度			取り組み内容
		目標	結果	判定	
省エネルギー・省資源による地球温暖化の防止	電気使用量 (売上当たり)	2%削減*	67%削減	○	不要な照明の消灯 作業の効率化
	化石燃料使用量 (入荷量当たり)	2%削減*	6.1%削減	○	BDF使用 アイドリングストップの推進
	CO ₂ 排出量 (売上当たり)	2%削減*	50%削減	○	BDF使用 作業効率の改善
	委託輸送に係るエネルギー使用量 (輸送トンキロ当たり)	16.8×10 ⁻⁶ kL	17.1×10 ⁻⁶ kL	×	各事業所との連携 委託業者への協力要請
廃棄物の抑制	リサイクル率 (入荷量当たり)	82%	93%	○	分別の徹底
環境汚染の防止	粉じんの苦情件数	0件	0件	○	監視、清掃の実施
循環型社会に貢献	グリーン購入率	80%以上	83.8%	○	購入先の見直し 購入品の変更

*平成24年度比：3年内の平均的な業務量の年度を基準年度としています。

環境負荷低減への取り組み



汚染土壌処理施設

▲名古屋RC

名古屋、横浜、大阪の各リサイクルセンター（RC）と仙台共同処理施設では、汚染土壌の処理および産業廃棄物の中間処理を行っています。当社の基幹となる工場であり、環境負荷を低減するため方法を日々模索しています。

臭気の防止

臭気の強い土壌の搬入があった場合、場内のミストに消臭剤を混ぜて臭気の抑制を図っています。横浜RCでは、場内外の臭気ポイントで職員が臭気確認を日々行うと共に、営業担当と連携する事で、臭気の強い土壌について事前に情報を入手し、消臭剤の準備等の対策を行っています。また、大阪RCでは、臭気により消臭剤の種類と濃度を決め、臭気の抑制を図っています。

重機エコモードによる稼働

大阪RCにおいて新しく購入した重機には、エコモードが搭載されています。エコモードで稼働する事により、通常モードで稼働した場合に対し燃料使用量の約12%の削減効果（メーカー公表値）が得られます。化石燃料使用量の削減が期待される他、それによるCO₂排出量の削減効果も期待されます。

水質汚濁防止

横浜RCでは、場内に排水処理施設を設置しています。当該施設では、場内から集められた排水のpHを測定し、条例で定められた基準値まで調整した後に運河へ放流しています。



▲排水処理施設（横浜RC）

粉じんの抑制

各RCでは、汚染土壌の場外への飛散を防止するため、清掃車を導入しています。また、工場出入り口およびテント建屋内でミストカーテンを導入する事で、粉じんの拡散を防止しています。仙台共同処理施設では高性能な集じん機を導入しており、また昨年名古屋RCでは、当社グループ初の大型路面清掃車を購入いたしました。また、横浜RCは他企業様の工場が隣接しているため、1日に最低5回床面清掃する事で粉じんの拡散防止に努めています。



▲中型路面清掃機（名古屋RC）



▲テント建屋入口におけるミストカーテン（大阪RC）

従業員の意識改革

工場内では多くの重機が稼働している他、当社従業員を含め協力会社の従業員も多く働いています。大阪RCでは、朝礼時に改質材添加率や燃料使用量を協力会社従業員に意識させる事により、改質剤添加による粉じんの発生や、燃料消費によるCO₂発生の抑制を図っています。また、横浜RCでも、アイドルングストップ運動や重機の高回転作業の抑制を周知する事で、CO₂発生の抑制や大気汚染の防止を図っています。

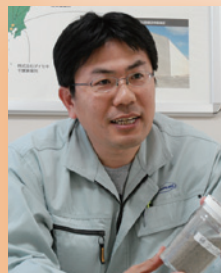
受入先の確保

当社は、仙台市地元の仙台環境開発（株）（主体は管理型処分場）との共同事業（汚染土壌対策事業）をスタートし、これまでは埋立処分されていた廃棄物や汚染土壌のセメントリサイクルを開始しました。操業当時は1工場のみを搬出先としていましたが、より確実なリサイクルルートを確保するため、昨年は東北を中心とするセメント会社（工場）8社との関係を構築いたしました。

-INTERVIEW-

環境負荷低減の“破”を考える

名古屋RCでは、日頃より粉じんや臭気の対策を図っています。昨年は大型の路面清掃車を導入して大きな効果が得られました。また、臭気対策では部署での取り組みが認められ昨年度下期の社内提案制度で表彰を受けました。今後もRC内での環境負荷の低減を図り、作業環境がますます向上するように取り組んでいきたいです。



名古屋事業部
名古屋RC
センター長
原 健之

トラックスケールの増設

土壌や廃棄物の搬入出では、重量を測定しています。名古屋RCでは、搬入出の際の交通渋滞を緩和するためにトラックスケール（特定計量器）を1台増設し、信号機による交通誘導を導入しました。これによりトラックの入退場を安全かつ効率的に行う事ができ、また待ち時間の削減による燃料使用量の減量が期待されます。



▲増設したトラックスケール（写真右）と信号機（名古屋RC）

横浜RCでは、職場環境・場内動線等の改善を計画しています。大きな意味で働きやすい環境を整える事が、結果、環境負荷の低減に繋がると考えています。具体的には今まで必要以上にかかっていた電気使用量の削減や、場内動線効率を大幅に改善し、さらなる環境負荷の低減に取り組んでまいります。



東京事業部
横浜RC
センター長
藤本 和彦

GAC・GAC名港工場・GAK



▲GAC名港工場

地盤改良材の販売促進

GAC名港工場で製造されている地盤改良材は、再生資源をベースとしており、循環型社会の実現に大きく貢献しています。そのため、販売を促進する事で環境負荷の低減へと繋がります。昨年度は、お客様の要望に合った配合割合で調整し、顧客満足度を高める事で販売を促進しました。また、販売を促進する事は、再生資源の受入量を増やす事にもなり、リサイクル率が向上します。

(株)グリーンアローズ中部(GAC)本社工場と(株)グリーンアローズ九州(GAK)で行われている廃石膏ボードのリサイクルは、土壌汚染対策事業に次ぐ重要な事業です。昨年度は環境負荷の低減に向けて、社内外で以下のような取り組みを行いました。

BDFの利用

GACでは、バイオエナジーセンターで製造したBDFを全重機に使用しています。昨年度は重機の燃料を軽油からBDF5%と軽油95%の燃料に変更して、CO₂発生量の削減に努めました。

お客様へ知識のご提供

水に濡れていたり、モルタルの付いた石膏ボードはリサイクルはできません。リサイクルできない石膏ボードは管理型埋立処分場に埋められますが、九州では管理型処分場が比較的多いため、まだまだ十分にリサイクルが浸透していません。そこでGAKでは、営業時にお客様へ石膏ボードの選別・保管方法を提案するよう心がけました。それにより、全量埋立処分されていた石膏ボードの一部でもリサイクル可能となり、リサイクル率の向上に貢献いたしました。

バイオエナジーセンター



バイオエナジーセンターでは、廃食油からバイオディーゼル燃料(BDF)の生産を行っています。昨年度から新しく家庭からの廃食油も扱い始めました。よりリサイクルの輪を広げるため、以下の取り組みを行っています。

名古屋市家庭系廃食油BDF化事業の開始

平成27年4月から名古屋市と提携し、家庭から排出される使用済みてんぷら油を年間約59kL回収いたしました。これは500mLのペットボトルの約12万本に相当します。それをBDFとしてリサイクルし、名古屋市の市バス・ゴミ収集車の燃料として約31kL供給いたしました。



- ▲右：名古屋市『家庭系使用済みてんぷら油(廃食用油)のバイオディーゼル燃料化事業』
- ▲中央：BDF使用ゴミ収集車(名古屋市HPより抜粋)
- ▲左：バイオエナジーセンターで働く当社社員

製造時の副産物を他事業で再利用

BDF製造時に排出するグリセリンについて、GAC名港工場で製造している地盤改良材の添加剤としての利用を開始いたしました。防じん型の地盤改良材(GA-S)として粉じんの抑制に役立っています(右図)。



▲地盤改良材投下実験(投下高さ 50cm)

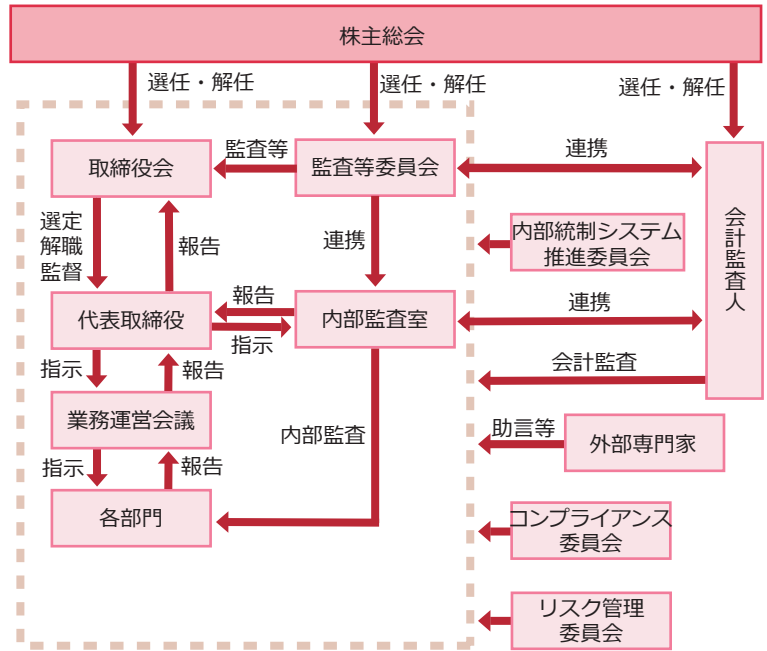
コンプライアンス

コンプライアンスとは、一般的に企業を健全に運営するための仕組みの基本原則の一つで、法律や内規等のごく基本的なルールに従って行動することです。当社は、健全で透明性が高く、経営環境の変化に迅速かつ適格に対応できる経営体制の確立を最も重要な課題の一つと考えています。

組織運営・内部統制体制・監査

当社の取締役会は、代表取締役社長を始め8名により構成され、会社法で定められた事項および取締役会規則に定める、経営に関する重要事項を審議するために、毎月1回以上開催しています。監査等委員会は、常勤監査等委員1名と、社外取締役である監査等委員2名の計3名で構成されています。各監査等委員は、取締役会その他の重要な会議に出席し意見を述べる他、取締役等から営業の報告を受け、重要な決済書類等を閲覧することとしています。また、会計監査人、内部監査室と連携して各事業部における内部統制の状況およびその改善状況等を把握する等の業務監査を実施する事としています。

当社の経営管理組織体制を図で表すと、右図の通りです。この図には、財務情報の統制、リスク管理、品質管理等に関する内部管理体制も含めて図示しています。



▲内部統制組織 概略図

法令遵守

当社は、土壌汚染対策事業を中心として、各種環境関連事業を営んでいます(→事業紹介p.6~12)。そのため、一般の事業会社と共通のもの、業法上のもので、その他の環境関連のもの等の、主に以下の法令を遵守しています。

平成27年度はもちろん、それ以前においても重大な法令違反は行っていません。

一般的な法令	労働安全衛生法、労働基準法、道路交通法、消防法、建築基準法	
業務上の法令	各事業部門に共通	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
	土壌汚染対策事業	土壌汚染対策法、建設業法
	バイオディーゼル燃料製造販売事業	食品リサイクル法
	PCB事業	PCB特別措置法
その他環境関連等の法令	環境分析部門	計量法、毒物及び劇物取締法
	省エネ法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、下水道法、海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律、騒音規制法、悪臭防止法	

優良産廃処理業者認定制度

当社は、コンプライアンスを含め適正処理業者の証である優良産廃処理業者認定*を延べ12自治体(9都道府県+3市)から受けています(平成28年3月末現在)。

*優良産廃処理業者認定制度:

1. 実績と遵法性
 2. 事業の透明性
 3. 環境配慮の取組
 4. 電子マニフェスト導入
 5. 財務体質の健全性
- といった通常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした産廃処理業者を都道府県・政令市が審査して認証する制度

教育

当社では、社員の成長こそがビジョン2025 (p.3参照) の実現に繋がると信じています。一人ひとりがお客様のために何が出来るかを主体的に考え、行動する集団になるため、研修を始めとした社内教育制度を整備しています。また、当社が行っている業務では、法令により扱いが厳しく規制されている廃棄物や有害物質、危険物を取り扱います。当社では取り扱いに必要な教育を行い、業務には専門的な知識を身につけると共に、法令の遵守や事故の防止に努めています。

新入社員教育

新入社員教育には、「7つの習慣®」の「ディスカバリー」公開セミナーを取り入れています。この研修で新入社員は、「7つの習慣®」を基とした社会人としての心構えを学びます。また、環境問題の解決を目的とする当社の事業内容を理解できるように、各部署の担当者が講師となり、現場を体験しながら研修を行っています。配属部署に関わらず、様々な部署の研修を受ける事で、当社の特色であるOne-Stop Solutionをより深く理解できる研修プログラムを実施しています。



▲「ディスカバリー」研修

作業基礎教育・能力認定

当社は危険性の高い作業や、環境に大きな影響のある作業等を行う場面があります。該当作業は、基礎教育後、実習とテストによる能力認定を行い、「一人で安全に正確な作業ができるようになった者」として社内認定された者だけが行うようにしています。

環境啓発教育

環境問題への関心と、ISO14001の理解を深めるために、本報告書をテキストにする等、全社員を対象にした環境啓発教育を行っています。

-INTERVIEW- 教育の“破”を考える

「ビジョン2025」を実現するために、全社員が「7つの習慣®」リーダーシップ研修を受講し、自らの人格を高め、チームとして相乗効果を発揮するために、意識改革と行動変容を習慣化していく事を学びました。この学びを日常の仕事・プライベートで実践に繋げていくために、毎朝15分程度の勉強会と体験シェアを行っています。徐々に社内で、「7つの習慣®」のコンセプトを表す「主体的である」、「Win-Winを考える」等の言語が聞かれたり、時間管理のコンセプトを応用して、ミーティングを実施する部署が出てきました。確実に一歩ずつ浸透し始めている実感を得ています。更に、個人・チームでの実践を促し、社員と組織の成長を促す企業文化の醸成に繋がって行くような仕掛けを実施していきます。



企画管理本部
人事部GM
箕浦 隆往

資格取得の推進

公害防止管理者等、法律に定められた資格について、奨励金制度を設け、社員の資格取得を支援・奨励しています(下表)。

資格名	人数	増減
特別管理産業廃棄物の処分過程	14	-
特別管理産業廃棄物の収集・運搬過程	14	-
特別管理産業廃棄物管理責任者	8	+1
破碎・リサイクル施設技術管理者	1	-
産業廃棄物中間処理施設技術管理者	1	-
土壌汚染調査技術管理者	23	+4
土壌環境監理士	4	-
土壌環境保全士	20	-
土壌環境リスク管理者	38	-
地質調査技士	15	+1
技術士(建設部門・環境部門・ 生物工学部門・応用理学部門)	4	+1
1級土木施工管理技士	16	+1
1級建築施工管理技士	2	+1
環境計量士(濃度)	7	+1
環境計量士(騒音・振動)	3	+1
一般計量士	1	-
水質関係第1種公害防止管理者	19	+2
水質関係第2種公害防止管理者	3	-
大気関係第1種公害防止管理者	12	-
大気関係第2種公害防止管理者	4	-
ダイオキシン類関係公害防止管理者	6	-1
甲種危険物取扱者	10	-1
放射線取扱主任者(第2種および第3種)	3	-1
環境カウンセラー(事業者部門)	1	-
環境カウンセラー(市民部門)	1	-

*平成28年6月現在(増減は昨年度比)

安全部会

技術課、分析課では、月に1回のペースで「安全部会」を行っています。安全部会では、その月の事故報告やヒヤリハット報告についてのディスカッションや、安全衛生に関する勉強会を実施しています。また、安全対策室主導で、安全衛生に関する小テストを実施し、知識と意識の向上に努めています。



▲安全部会の様子

安全衛生

当社は、『安全はすべてにおいて優先する』を事業活動における基本理念として、社員一人丸となって事故の防止、労働災害・健康障害ゼロに向けた安全衛生管理に取り組んでいます。

平成27年度 安全標語

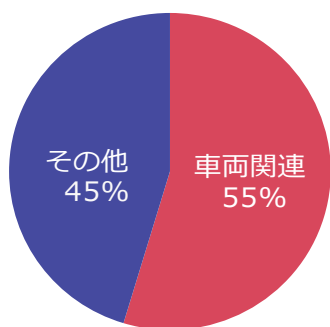
声掛けが 労災ゼロへの 第一歩 必ず守るぞ 仲間の安全



自動車事故を減らすために

ハインリッヒの法則では、1件の重大災害の背景には29件の軽微な事故があり、その背景には300件の障害に至らない事故が潜んでいる、としています。これは、重大災害の背景には数多くの事例・前触れがある事を表しています。当社では、この障害に至らない事故を分類し、多発している事故について集中的に対策を講じる事により、重大事故の抑制対策としています。

当社にて昨年1年間に発生した事故の型を分類すると、約半数が車両（営業車を含む）に関係する事故である事が分かりました（図1参照）。これらの事故は、ほとんどが軽微な事故ではありましたが、これらを危険の芽と捉え、車両の事故防止にターゲットを絞った活動を実施しています。昨年からは新たに、次の2つを開始しました。



▲図1 当事故分類別比率

①安全運転講習の受講

安全運転の適性検査により、自身の性格と、運転時にしがちな行動、また注意すべき状況はどのようなものかを各自把握しました。そして希望者は運転講習を受講し、知識・技術の確認を行いました。

②営業車へのドライブレコーダーの設置

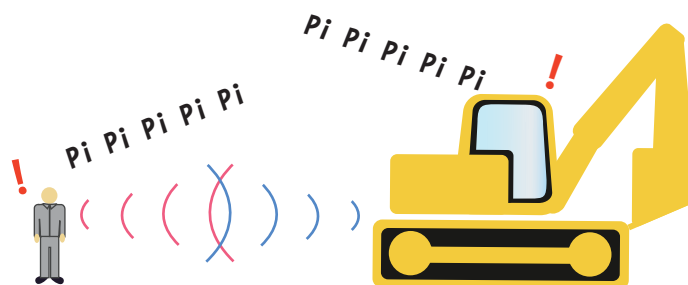
一部の営業車へドライブレコーダーを設置しました。今後、全車両への設置を検討しています。ドライブレコーダーにより、事故時の状況をより正確に把握し、今後似たような事故が起きないように対策を練る事ができるようになりました。また、運転者の意識向上に役立っています。

接近検知器の導入

当社では数多くの重機が使用されており、当社および関係業者の作業員の安全確保が重要課題です。ミラーや目視確認等、これまでも対策を工夫してきましたが、車両や重機の「死角」はどうしても生まれてしまいます。そこで昨年、横浜リサイクルセンターにおいて『接近検知機』を試験的に導入しました。



この探知機を人と重機の双方に取り付ける事で、両者が接近した際に警告音が鳴ります。これにより、これまでの「視覚」による情報に加え、「聴覚」からの情報が得られるようになり、死角による事故のリスクを抑える事が期待されています。今後のリスク回避の経過を観察し、有効だと判断された場合には、全作業場に導入を検討します。



高所での安全帯の着用

昨年グループ会社である（株）グリーンアローズ中部（GAC）では、他部署に先駆けて高所からの落下防止装置（安全帯）を導入しました。当グループには様々な業者様のトラックが出入りします。その積荷に異物混入等がないか内容確認を行います。同様の作業を行っている際に、バランスを崩して落下してしまうという災害が全国的に起きてしまっています。これまでは防護具（規定で定められたヘルメットおよび反射チョッキ、安全靴）の着用を義務づけてきましたが、当社ではこの労災を更に減らすための対策を熟考し、安全帯へと辿り着きました。作業者が誤って落下してしまっても、安全帯を着用していれば怪我を軽減する事ができます。設置して間もないため、今後着用するよう意識付けを行っていきます。



▲安全帯の使用方法。つける位置は腰骨より後ろに。

写真付作業手順書の作成

GACでは、大型の重機の傍で作業する機会が多く、また作業場内は廃石膏ボードを破碎する際に粉じんが発生しています。この環境での作業をより安全なものとするため、GACでは写真付きの作業手順書を作成しました。服装から受入作業方法まで注意点を挙げ、作業員全員の共通理解を促しています。



▲荷台の扉を開ける場面。荷が落ちてくる事がある。

平成27年度の実績

平成27年度の不休災害は2件、休業災害は0件でした。平成18年度から平成27年度に発生した休業災害の度数率*1、および強度率*2の推移は以下のグラフの通りです。今年度の実績は、前年度と同様に全産業平均を大きく下回ることができました（図2,3）。

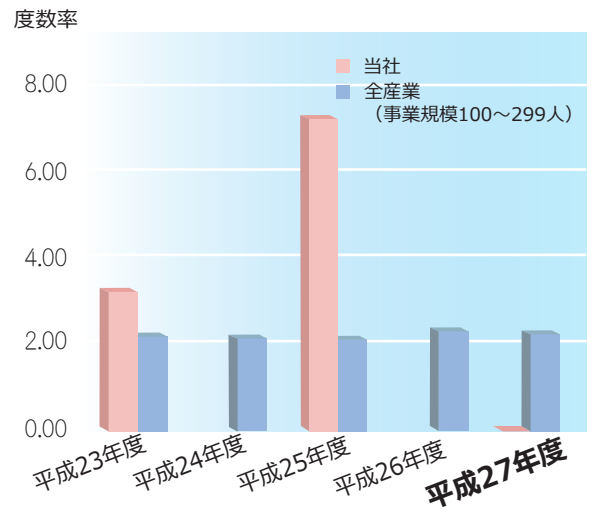


図2 度数率*1の年度別推移

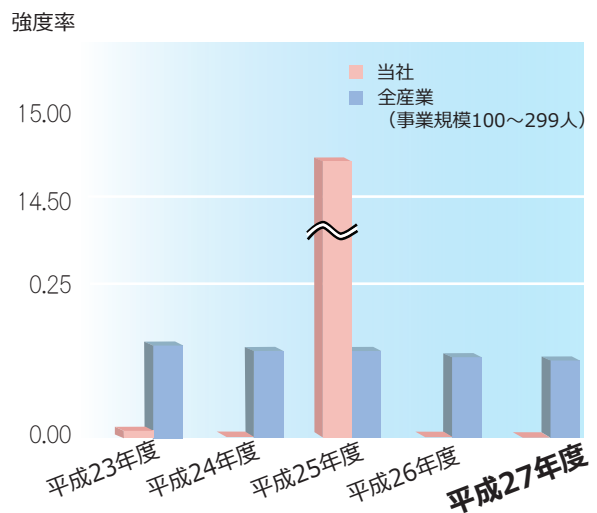
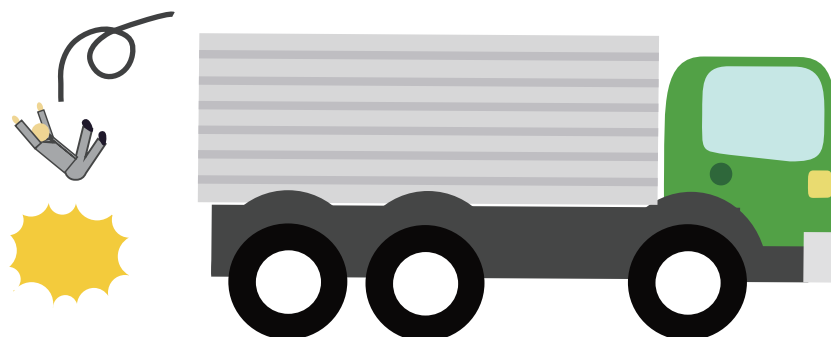


図3 強度率*2の年度別推移

- *1 度数率：災害の頻度を表す。
100万延労働時間当たりの労働災害による死傷者数
- *2 強度率：災害の重さを表す。
1000延労働時間当たりの労働損失日数
- *図2, 3 当社データは平成27年3月～平成28年2月
全産業平均データは各年1月～12月集計値に基づく
出典：厚生労働省 労働災害動向調査



社会貢献活動

当社の事業は、環境やリサイクルに関わるものが多く、社会貢献に間接的に繋がると考えています。同時に事業以外でも、直接的な社会貢献活動にも取り組んでいます。ビジョン2025を見据えながら、地域社会の一員としての自覚を深め、社会貢献活動をより一層広げていきます。

藤前干潟クリーン大作戦

藤前干潟は、名古屋港に残された日本最大級の渡り鳥渡来地であり、渡り鳥たちの休息と栄養補給の大切な中継地になっています。平成14年には国設鳥獣保護区の指定およびラムサール条約の登録地となりました。しかし上流から運ばれた石油燃料の製品ゴミに覆われており、流域住民の良識が問われています。

名古屋本社では、平成23年から、藤前干潟清掃活動への参加を社員に呼びかけています。昨年は計23名が参加いたしました。会社からも、参加する社員に対して昼食や熱中症対策の飲み物を提供し、活動を支援しています。

大阪マラソン“クリーンUP”作戦

毎年秋には大阪で大阪マラソンが開催されます。その開催1週間前に、きれいな街づくりのための清掃活動が大阪市の主催により行われています。大阪市が各企業や団体、そして一般市民に呼びかけ、公共スペースを清掃する取り組みです。

関西支社では、毎年参加者を募りこの活動に参加しています。昨年は約15名の社員が参加し、事務所から近い千鳥公園の清掃を行いました。

あしながPウォーク10

「あしながPウォーク10」は、昨年11月に開催された、あしなが育英会主催のウォーキングイベントです。病気・事故および自死遺児の進学支援や、世界規模の遺児支援のため、全国同時に開催されました。当社の社員にも子供をもつ社員が多く在籍しており、その子たちにもいつ、どのような事で同様の状況が生まれないうも限りません。他人事とは考えず、このような支援活動に参加する事は社会の一員としてとても大切です。

名古屋本社で参加者を募り、計8名が参加いたしました。当日はクイズ等のイベントも行われ、遺児への理解が深まる良い機会となりました。



▲あしながPウォーク10での集合写真



▲藤前干潟清掃活動の様子

-INTERVIEW-

社会貢献活動の“破”を考える

藤前干潟清掃活動に初めて参加したのは、私が入社した平成26年の5月でした。普段何気なく見ていた風景にこれほどのゴミがあったのかという驚きと、協力してそのゴミを回収し、綺麗にした際には大きな達成感がありました。以降毎年参加しています。また昨年は新たにあしながPウォークにも参加しました。途上国の遺児が実際に食べているものを食べる等、参加しなければ知り得なかった貴重な経験をし、少しでも貢献できたならと強く感じました。

今は様々な団体が行っている活動に“参加”している、守破離における“守”の段階です。守から学び、その次にあたる“破”の段階として、「環境リバリューストラクチャー」創造企業を目指す当社だからこそ出来る地域貢献を実現していきたいと思っています。



環境事業本部
事業推進部
技術統括課
伊藤 健二

JDTSは、井本商運株式会社、仙台環境開発株式会社、オオノ開発株式会社、大栄環境株式会社、株式会社富山環境整備、DOWAエコシステム株式会社、株式会社タケエイそして当社を含めた廃棄物処理の専門業者8社からなる団体であり、昨年設立いたしました。これら8社は、阪神淡路大震災や東日本大震災等のような大災害に際し、災害廃棄物の処理に直接関与し、効率的な災害廃棄物処理方法や広域的な輸送システムを構築していく必要性を強く感じてきました。平成27年4月に「廃棄物の処理および清掃に関する法律」および「災害対策基本法」の一部を改正する法律が整備され、災害廃棄物の迅速な処理に向けて、適正処理を確保した上で既存の廃棄物処理施設を柔軟に活用する事や、国・自治体・民間事業者間の相互協力・連携の強化が盛り込まれました。この改正法が有効に機能するためには、私たち廃棄物処理業者が主体的に取り組んでいく事が不可欠です。

JDTSの特徴は以下の3つです。

- ① 卓越した運搬能力
日本全国を繋ぐ海上輸送航路と多くの産業廃棄物運搬車両を保有する事で、広域的な輸送システムを構築しています。
- ② 全国に分散した処理施設と大きな受入能力
破砕・焼却・埋立施設について、多数の処理施設を分散して保有しており、災害発生時に素早く対応する事ができます。
- ③ 豊富な実績
これまでに多くの災害廃棄物処理に関わってきた経験から、各関係者に課題と対策をアドバイスできます。

今後も、JDTSをより役立つ団体とするために、各社で協力していきます。

工場周辺の清掃活動



▲工場周辺の清掃活動の様子

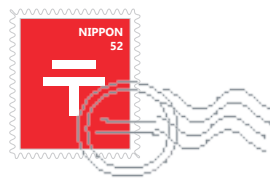
当社では定期的に、工場や事業所周辺の清掃活動を社員で行っています。日頃から私たちが使う公共の場所も清掃する事で、地域貢献の意識も高くなっています。

エコキャップ

ペットボトルのキャップは、リサイクルできる有価物です。当社ではペットボトルのキャップのみを回収し、活動団体（NPO団体 エコキャップ推進協会）を通じて、医療支援、発展途上国へのポリオワクチンの寄付、障害者支援、子供たちへの環境教育といった様々な活動に貢献しています。平成22年夏から始め、累計46,367個が集まり、53.9人分のワクチンとして貢献できました。



当社では、毎日多くの郵便が届きますが、その切手を回収しています。古切手は日本赤十字社を通じて日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）へ送られます。1kg約1,300円で収集家の方に販売され、海外医療援助の人材派遣費用に当てられています。



災害用備蓄品「救缶鳥」

近年日本は東北・熊本と大きな災害に見舞われており、会社でもそのような非常事態を想定した対策が必要とされています。当社では災害時の非常食としてカンパンを備蓄しておりましたが、平成26年からそれに加え、株式会社パン・アキモトの「パンの缶詰」を導入する事といたしました。

「パンの缶詰」には、消費期限3年のパンが入っており、これを購入する事で（株）パン・アキモトの飢餓対策支援活動「救缶鳥プロジェクト」に参加し、国際貢献をする事ができます。「救缶鳥プロジェクト」とは、消費期限3年の「パンの缶詰」を、備蓄から2年後、消費期限を1年残して、（株）パン・アキモトが回収し、義援物資としてNGOを通じて飢餓に苦しむ国々へ届けられる活動です。当社では導入から2年が経ち、この平成28年に初めて海外へ送る事となります。もちろん、このプロジェクトに参加する事で備蓄品を更新するペースは早くなってしまいます。いつ起きるか分からない災害のために用意している”食糧”が、廃棄されずに世界の誰かに役に立つというプロジェクトです。間接的ではありますが、これからもこの活動への参加を続ける事で、世界の飢餓対策支援に貢献していきたいと思えます。



参照：（株）パン・アキモトホームページ
(<http://www.panakimoto.com/kyucancho/index.html>)

働きやすい職場づくり

社員は会社の財産です。ビジョン2025も、社員一人ひとりが力を出すことにより達成されると考えています。当社は、社員の健康を第一に、そして個人の能力を十分に発揮して働く事ができる職場づくりを目指して、様々な制度の整備を行っています。

社員の安全と健康

当社は社員の安全と健康を守るため、以下の事を行っています。

- ① 35歳以上の定期人間ドック受診・35歳未満の定期健康診断の受診
- ② 特殊作業従事者の定期特殊健康診断の受診
- ③ 全社員の過重労働対策
- ④ 本人および扶養家族へのインフルエンザ予防接種費用補助

ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と生活の調和」と訳されます。一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働くと共に、家庭や地域生活等の暮らしも充実させ、人生の生きがい、喜びを得るという考え方です。当社では、「ワーク・ライフ・バランス」実現のため、以下の取り組みを行っています。

●ノー残業デー

当社では平成20年の洞爺湖サミット開催に際して、CO₂削減を目指した全社ノー残業デーを設定いたしました。当社では、ノー残業デーを毎週水曜日に制定し、日頃から定時帰宅を励行しています。

●育児休暇

働き盛りの社員は、同時に子育て世代でもあり、仕事と育児の両立はとても重要な課題です。当社では、育児休暇の制度を充実させ、育児への支援を行っています。

●時短勤務

当社では、事業部内で連携をとり、時短勤務に柔軟に対応しています。保育園の送迎等から勤務時間をずらす事によって、子育てを支援しています。

健康づくりの応援

健康は日々の適度な運動からつくられます。当社では、様々なサークル活動を支援・推奨し、社員の健康づくりや社員間の交流をサポートしています。

●テニスサークル

グループ会社（株）ダイセキのサークルと合同で練習を行っています。会社の垣根を越えて交流しています。

●ゴルフサークル悠雄会

経験、年齢、役職に関わらず、多くの社員が参加しています。初心者や若手社員の参加も増えてきました。

●スキーサークル雪うさぎ

（株）ダイセキと合同で行うスキーツアーです。家族ぐるみの交流も楽しみの一つです。

●サイクリングサークル **NEW!**

今期から新たにサイクリングサークルを立ち上げました。老若男女問わず自転車好きが集まり、自然豊かな場所を目指してサイクリングに出かけます。

-INTERVIEW-

ワーク・ライフ・バランスの“破”を考える

私が当社社員初の産休制度を取得しました。もちろん育児休暇制度もあります。これは男女問わず取得できますし、過去に男性社員で取得された方もいます。産休・育児休暇の取得に不安を持たれている方はいると思いますが、問題なく取得できますので安心してください。

仕事から離れた事で、体力面や仕事の感覚をすぐに取り戻せるか、また、家事・育児と仕事との両立が上手くできるのか等、職場復帰については、正直なところ不安だらけでした。また、子供の急病は常につきものです。それによって予定していた業務ができない事もあり、同じ部署の方にはご迷惑を掛けてしまう事も度々あります。復帰をして問題なく勤務を続けられるのは、同じ部署の方々のご理解、ご協力があるからだに常に感謝しています。

子育てをしながら仕事をするのは思っていた以上にハードですが、会社初め、同僚の理解がありますので安心して働く事ができます。今後は、あとに続くワーキングマザーの方たちのためにも、勤務を続ける上での良いアイデアや意見等を挙げていけたらいいと思います。



安全対策室
吉野 宏美

産休取得：平成27年5月8日～平成27年8月13日
育児取得：平成27年8月14日～平成27年8月31日



▲ゴルフサークル
悠雄会



▲サイクリングサークル

社内制度

当社では、社員がもてる能力を発揮し、かつ充実して働く事ができるよう、以下の制度を整えています。

●提案制度

社員一人ひとりが積極的に仕事に関わりながら、より良い仕事を創っていく事を目的とし、当社では提案制度を設けています。各部署の社員が自由な発想で提案し、業務の改善に役立てています。平成27年度は、アイデア部門で10件、改善部門で214件の提案がありました。

業務に関わる機器や運転方法の改善から、休憩室に関する提案等、社員が感じた様々なアイデアを積極的に発言できる雰囲気が作られています。

●社内インターンシップ制度

他部署の事を知るためには、実際にその部署で体験する事が一番です。当社では、社内インターンシップ制度を設け、年に1回、希望者が他部署での業務を体験する機会を作っています。

●ブラザー・シスター制度

入社1年目の新入社員と、そのブラザーに任命された先輩社員が交流するという制度です。新しい環境や社会人になった悩みなどを相談しやすい”繋がり”を作ることを目的としています。普段の業務では接する機会の少ない他部署の社員とブラザー・シスターとなる事で、お互いの業務の理解にも繋がります。会社からは補助金を支給し、ブラザー・シスター間での積極的な交流を支援しています。

-INTERVIEW-

ブラザー制度の“破”を考える

昨年新入社員となった当初、「働く」という事が全く分からず、仕事をしていく中で様々な悩みや疑問が出てきました。同期で相談はしていましたが、同じ新入社員という立場では、中々悩みは解消されませんでした。そんな中、先輩社員に相談できる機会があったことで、自分が学生から社会人へと変わる後押しをしていただけたように感じています。ブラザーの先輩は年齢が離れすぎず、少し年上の「お兄さん」のような存在だったので、とても相談がしやすかったですね。その方とは制度が終了後も一緒に食事に行っています。こういった人脈が作れるというのも、ブラザー制度の良いところではないでしょうか。もし私がブラザーを受け持つ側になった際は、その頃の自分を振り返り、新入社員が社会人としての一步を踏み出す応援ができればと思っています。



新入社員	先輩社員
環境事業本部	企画管理本部
PCB事業部	人事部
営業課	人事課
津田 健一郎	川上 厚弥

●Good Jobカード

同じ社内で働いていても、感謝の気持ちを伝えるというのは難しい事です。ですが些細な感謝でももらうと励みになります。「Good Job カード」は、社員同士の感謝の気持ちを伝えやすくするために導入されました。社員同士の行動について、心温まるサポートをもらって嬉しかった、クレドに沿った行動を目にした等の事例をカードに書いて渡し、相手に気持ちを伝える事をお手伝いします。これらの事例を大々的に社内に取り上げる事で、エネルギーを送り合う企業文化を創造し、チームワークの醸成を図る制度です。



▲Good Jobカード裏面

●自己申告制度

仕事では、働きながら自分のやりがいが見えてくる事もあります。当社では、毎年、業務内容や配置転換の希望を社員全員から聞く機会を設け、社員のやりがいを大切にしています。

●ピアバスト

当社では3ヶ月に一度、ピアバストという交流会を設けています。役職や所属に関係なく、全社員が参加できる会であるため、普段の仕事では接することのない社員と接点をもったり、お互いの近況を共有する事ができます。また、この場でGood Jobカードを多くもらった社員、多く出した社員、そしてその内容が当社のクレドのどれにあたるものが多いのかを紹介しています。

ピアバストを開催する事により、部署に限定されない、会社全体での縦と横の繋がりを強くする事ができます。その結果、社員の働きやすい環境や日々のやりがいに繋がる事を願っています。

業務外の生活へのサポート

当社は「ライフサポート倶楽部」に加盟しています。旅行やレクリエーション、住居、資格や自身のスキルアップまで、生活に関わる面で優待サービスを受ける事ができます。

コミュニケーション

汚染土壌や産業廃棄物を扱う当社において、投資家様、お取引様、地域の皆さま等ステークホルダーの皆さまとの信頼関係は最重要課題の一つです。今後も更なる信頼関係を構築していくため、皆様とのコミュニケーションを図ってまいります。

見学会の実施

当社には、取引先の皆さまから処理をお任せいただいているという責任があります。取引先の皆さまに、安心して処理を委託できる会社である事をご納得いただくため、汚染土壌の処理を行っているリサイクルセンターや、廃食油をリサイクルしているバイオエネルギーセンター等の施設見学を随時行っております。そのうちバイオエネルギーセンターでは、社会的関心の喚起や、リサイクル事業のモデルケースとして、これまでに様々な環境関連協会、公的機関、取引先の方々をお迎えいたしました。

見学等の申し込みはHPから受け付けています。

(<http://www.daiseki-eco.co.jp/mail/index.html>)

平成27年6月20日に、名建協会員有志が企画・運営する「なごや環境大学教育講座」が(株)グリーンアローズ中部(GAC)本社工場および名港工場において開催され、計27名の市民の皆さまが参加してくださいました。廃石膏ボードリサイクル事業の概要や意義を解説し、たくさんの質問をいただく事ができました。

また、地域の学生インターンシップの受け入れもっており、当社の事業内容について知っていただく貴重な機会として大切にしています。



▲「なごや環境大学教育講座」におけるGACの工場見学

-INTERVIEW-

コミュニケーションの“破”を考える

市民の方々にバイオエネルギーセンターを見学していただく事の意義は、「廃食油のリサイクル事業を知る事で、そのリサイクルに参加していただく」事であると考えています。バイオディーゼル燃料(以下BDF)は、廃食油を原料として作られる軽油の代替燃料です。植物由来の廃食油が原料であるため、CO₂排出量が実質ゼロになると考えられており、環境にやさしい燃料だと言われています。この環境にやさしいBDFですが、世の中には中々知られていません。そこで、市民の方々に当センターを見学していただく事で、ゴミとして捨てられてしまう廃食油がリサイクルできるという事実を広く知っていただき、リサイクルに参加していただきたいと思っております。廃食油の回収は様々な市町村で行われており、特に名古屋市であればスーパーに回収場所が設けられており、お気軽に参加していただけます。

当センターの見学を通して、市民の方々の意識や知識が高まり、環境問題の解決に貢献できればと考えています。また、弊社はBDF事業以外にも様々なリサイクル事業に取り組んでいますが、その事についても知っていただければ幸いです。



環境事業本部
BDF事業部
松野 孝治



当社は全15校からなる大学生協東海事業連合と連携し、大学の食堂から出る廃食油を回収すると共に、その大学の学生に上記の施設を見学していただいています。この取り組みにより、学生の環境意識の向上と大学へのフィードバックが期待されています。

情報開示

より広い方々に、当社の事を知っていただくため、情報公開に努めています。

- 土壤汚染対策法に基づく指定調査機関の情報開示
環境省の「土壤汚染対策法に基づく指定調査機関の情報開示に関するガイドライン」に従って、調査実績および技術力（資格者数等）等の情報を自社ホームページにおいて開示しています。

環境・社会報告書

Environment & Social Report

環境省ガイドラインに 基づく情報開示 GuideLine

(株)ダイセキ環境ソリューション ホームページ
(<http://www.daiseki-eco.co.jp>)

- 産廃情報ネット等による情報開示
(財)産業廃棄物処理事業振興財団が運営する産業廃棄物情報サイト「産廃情報ネット」にて、処理業の優良製の判断に関わる情報開示および許可取得状況開示を行っています。また、愛知県ホームページにおいて、再生資源の適正な活用に関する要綱に基づく情報を掲載しています。



公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団
産廃情報ネット

産廃情報ネット さんばいくん（産業処理業者検索）
(<http://www2.sanpainet.or.jp>)

● 環境・社会報告書

毎年、新入社員を中心とした作成委員会を編成し、たくさんの皆さまに当社の魅力が伝わるよう想いを込めて、この環境・社会報告書を発行しています。そして昨年度には、環境省と一般財団法人・人間環境フォーラム主催の「第19回環境コミュニケーション大賞」において、環境報告書部門優良賞を受賞いたしました。この受賞を機に、本報告書をより多くの方にご覧いただき、当社が見出した新しい価値を感じていただければ幸いです。



会社説明会（IR活動）

当社では、投資家の皆さまに当社の健全経営を示す場として、投資家向け会社説明会を積極的に開催しています。また、従業員が株主となる持ち株会制度も整備しています。



中部電気保安協会
本店
営業部 主任
角田 直満 様

-INTERVIEW- (一財) 中部電気保安協会 様

(一財) 中部電気保安協会様は、一般家庭の電気設備の安全診断や、工場・ビル等にある電気設備の保安管理や試験等を行っており、PCB含有機器（電気設備）をお持ちのお客様と当社の仲介をしてくださっています。

○当社PCB事業部との関係をお聞かせいただけますか？

自家用電気工作物を所有する弊協会のお客様において、PCB含有電気設備機器の処理を希望された場合、(株)ダイセキ環境ソリューション様に依頼させていただきます。

○当社と関係をもった事で、影響のあった事、変化した事はございますか？

今までPCB含有機器の廃棄に関し、分析～搬送～処理までを一貫して行っていただけの企業様が少なく、お客様にご提案しづらい状況でした。しかし、(株)ダイセキ環境ソリューション様と協業させていただくようになった事で、お客様のPCBに関するお困り事を即解決できるようになり、お客様にも大変喜んでいただいております。これも、ご担当者様のスピーディかつ丁寧なご対応によるものであり、大変感謝しております。

○貴協会から見た当社の強みや特徴をお聞かせください。

一貫したサービスをご提供いただいている事が一番の強みであると思います。また、日本全国で対応可能という点は、全国展開のお客様をもつ弊協会としても非常に心強い点です。

今後、PCB含有機器の処分期限が近づくにつれ、お客様のご依頼数も急増する事が想定されますが、引き続き、弊協会の業務にご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ステークホルダーとの関わり

当社は様々なステークホルダーの方々に支えられています（下表）。
これらの方々の期待に応え、良好な関係を築き続けていく事を目指していきます。

ステークホルダー

お客様
取引先、行政
社員
株主、投資家
地域社会

コミュニケーションの機会

ホームページ、電話窓口、環境・社会報告書
届出、報告書、説明会(PCB等)、環境・社会報告書
研修・教育、安全衛生委員会、相談窓口、環境・社会報告書
ホームページ、IR活動、株主総会、環境・社会報告書
説明会、工場見学会、災害支援(東北大震災等)、環境・社会報告書

第三者コメント



国立大学法人 三重大学大学院
生物資源学研究科 生物圏生命科学専攻
生命機能化学講座 応用微生物学研究分野
栗冠 和郎（さっか かずお） 教授

プロフィール

東北大学で農学博士を取得。平成18年より現職。
応用微生物学 酵素工学 遺伝子工学 蛋白質工学
微生物 生態学を専門とし、現在の研究課題として
微生物および微生物によるバイオマスの資源化が挙げられる。

平成28年現在、社団法人日本農芸化学会に所属されている。

この度の第三者コメント執筆依頼を受け、初めて貴社のご活躍を拝見させていただきました。まず、本報告書がデザイン面も含めて、新入社員を中心に貴社の若手の方達のみで作成されたということに感心しました。新人の方達が環境報告書を作成するという貴社の文化が、若手の方の成長を促していると思います。事業紹介・環境マネジメント・社会性報告と多岐に渡る情報を、各ページ様々な読者を意識して上手く作りこまれています。特に事業俯瞰図では御社で取り組まれている事業を一望できるなど、随所に読み手側を意識した工夫が見られます。昨年度までの報告書も拝見させていただきましたが、本年度の報告書ではこれまでの良い部分をうまく踏襲しながら、さらに読者が身近に感じる事ができる報告書に仕上がっており、まさに本年度のテーマである「守・破・離」を体現しているのではないのでしょうか。

報告書全体を拝見すると、ビジョン2025を始め、非常に意欲的に新たな事業にチャレンジする姿勢が伝わってきます。ところどころに散りばめられた社員の方々のインタビューからは、「破」をテーマに次の一步を踏み出そうとする意欲的なコメントがあり、トップダウンだけでなくボトムアップで会社を変えていこうという意欲を感じました。研修等の取り組みの中で、会社の姿勢が社員の方々へ浸透してきていることが伺えます。新規事業でも、昔から取り組まれている土壤汚染対策事業

を発展させ、新たにブラウンフィールドとして、自社で土地を買い取り、浄化や措置を施して社会に還元する事業を展開される等、積極的な前進が伺えます。毎年のように新たな事業が展開されており、ベンチャー企業のようなチャレンジ精神を失っていない稀有な企業であると感じます。

私自身は長年、未利用バスマスの有効利用を目指した基礎研究に従事してきましたが、貴社のような大手企業でバイオエネルギーに取り組んでいるのを知り心強く思います。

こうした取り組みの中で、女性社員が活躍している記事を興味深く拝見しました。現場での調査や工事、あるいは営業といったハードな場面で活躍されている姿はとても頼もしく、こうしたエネルギーが新たな事業へのチャレンジを産み出す土壌になっているのではないかと拝察します。

世界は様々な環境問題の解決に迫られています。貴社におかれましては環境問題解決のプロとして「守・破・離」の精神を生かし、さらに発展していただくと共に、社会への貢献にも大いに期待しています。

用語集

ページ

用語

解説

ー	守破離	剣道の訓えの1つで、3つの成長の段階を示す言葉。守の段階では、師の訓えを守り、流派の型を習得する。破の段階では、型を破り独自の技を習得する。離の段階では、更に独自の技を磨き、今までの流派を離れ新たな流派として確立する段階を示す。
ー	ステークホルダー	利害関係者を意味する言葉。具体的には、消費者（顧客）、従業員、株主、取引先、地域社会、行政機関などが挙げられる。
2	クレド	ラテン語で「志」「信条」「約束」を意味する言葉で、企業において「従業員が心がける信条」「行動指針」の意味で使われる。
5	ISO14001	1996年にISO（国際標準化機構）によって作られた、環境管理（環境マネジメントシステム）の規格。ISO14001では、組織の活動による環境への影響を持続的に改善するシステムを構築し、PDCAサイクルによって改善し続ける事が要求されている。
6	土壌汚染対策法	土壌汚染による、人への健康被害を防止するために制定された法律。汚染土壌の発見、公示、管理、対策の仕組みが定められる。
6	石膏ボード	石膏を主成分とした素材を板状にして、特殊な板紙で包んだ建築材料。強度、断熱性、遮音性に優れ安価であるため、壁や天井等に広く使われる。石膏中のCaSO ₄ 由来の硫化水素ガスが発生する可能性があるため、廃棄には注意が必要である。
6	PCB特別措置法	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理に関する特別措置法」の略称。PCB含有機器、PCBに汚染された廃棄物を有する事業者に対して、保管の届出、譲渡の制限、期限内（平成39年3月31日まで）の処分が定められている。
8	カーボンニュートラル	二酸化炭素（CO ₂ ）排出量の送料がゼロと見なせる事。例えば、植物由来のエネルギーを使用すると、植物が光合成で吸収したCO ₂ 量とエネルギー使用によるCO ₂ 排出量が等量と見なせるため、環境中のCO ₂ 増加量はゼロにする事ができる。
9	CSR (Corporate Social Responsibility)	「企業の社会的責任」を意味する。具体的な例として、ステークホルダー（利害関係者）への説明責任や環境問題への配慮等が挙げられる。
9	VOC (Volatile Organic Compounds) (揮発性有機化合物)	常温常圧で気化しやすい有機物を示す。本報告書では、土壌汚染対策法で指定されている第一種特定有害物質を意味する。
11	バイオディーゼル燃料 (Bio Diesel Fuel : BDF)	生物由来から造られるディーゼルエンジン用燃料の略称。カーボンニュートラルな燃料であるため、再生可能エネルギーの1つに位置づけられる。
13	特定有害物質	土壌や地下水に含まれる事が原因で人の健康に被害を生ずる恐れがある有害物質。土壌汚染対策法では、鉛・ヒ素等25物質（平成28年8月現在）が指定されている。
14	遮水壁	汚染土壌の対策工事の1つで、水を通さない壁を地中に築く事で、汚染土壌によって汚染された地下水の拡散を防ぐ方法である。
20	グリーン購入	製品を購入する際に、その製品の必要性、環境への影響、製造過程での環境負荷等を考慮して、可能な限り環境への影響や環境負荷が少なくなるものを優先して購入する取り組み。
21	管理型（埋立）処分場	低濃度の有害物質を含む廃棄物や汚濁物質を発生させる廃棄物に対して、埋立てによって安定化を図る処分場。埋立てた廃棄物から有害物質を含む浸出水が生じるため、遮水工と水処理施設が設置され、地下水のモニタリングなどによって管理される。

環境・社会報告書2015アンケート結果

「環境・社会報告書2015」には、読者の方々から数多くの貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。良かった点としては、「ビジョン2025の紹介ページのおかげで全体にストーリーが生まれ、統一感が出た」「事業全容で企業イメージが一目でわかりやすくなった」「カタカナ単語に解説がついていて良かった」というコメントを多くいただきました。改善すべき点についてのご意見は全てを反映させることはできませんでしたが、出来得る限り参考にさせていただき、本報告書を作成いたしました。改善すべき点に関するご意見・ご要望と、本報告書の検討・改善結果は以下の通りです。

当社の活動分類	ご意見・ご要望	検討・改善結果（回答）
全体	ページ数が多い。	事業紹介の情報を抜粋し、載せる情報を厳選することで、ページ数の削減と情報の濃縮に努めました。
	情報量が多く、伝えたいことが薄まってしまっている。	
事業紹介	事業の全体像がつかみにくい。	事業俯瞰図を作成し、各事業がどのような貢献をしているのかを簡単にコメントいたしました。
	環境分析部を事業として紹介してはどうか。	特集1（p.10）で環境分析部の社内での役割と想いを紹介させていただきました。
	土壌汚染対策事業が主力とイメージしづらい。	事業紹介における土壌汚染対策事業の比率が大きくなるようにいたしました。
環境負荷低減への取り組み	昨年と変わっておらず、目新しさがない。	昨年新しく導入した機器や取り組みについて中心に取り上げました。
働きやすい職場づくり	工事・調査現場における女性の活躍を紹介してはどうか。	特集3（p.12）で前線で働く女性のインタビューを掲載させていただきました。

編集後記

当社の環境・社会報告書2016を最後までお読みくださり、ありがとうございます。当社は年を経る毎に規模を拡大し、成長を続けております。新入社員としてそれを把握し、理解し、そして分かりやすくまとめることはとても困難でした。皆さまに当社のことを知っていただくために編集している本報告書ですが、多くの方々のお話を伺い時間をかけてまとめに取り組んだことで、私たち自身が会社内の様々な事柄への理解を深めることができました。このような機会を与えられることは滅多にないことだと思います。本報告書をまとめるにあたって支えてくださった多くの方々はこの場を借りてお礼申し上げます。

新入社員で話し合い、今年度は当社の新しい取り組みや課題となる変革を皆さまに知っていただきたいと考え、テーマを「守破離」といたしました。編集自体も、当社をより皆さまに理解していただくにはどうすれば良いか考え、項目や構成を変えています。本報告書を通して当社の取り組みについて知っていただき、皆さまの環境保全活動へのきっかけになれば幸いです。

これからも皆さまの関心に応えられるような報告書を作ってまいります。ぜひアンケートにて率直なご意見・ご感想をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

環境・社会報告書2016作成委員会一同



環境・社会報告書 2016 アンケート

環境・社会報告書 2016 をお読みいただきありがとうございました。

今後の環境・社会報告書作成の改善のため、本アンケートの回答にご協力をお願いいたします。

年齢： 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上 性別： 男性 女性
職業： 学生 会社員 公務員 その他
当社との関係： お客様 株主様 お取引先 行政 環境 NGO・NPO 金融機関 その他()

Q1. 本報告書を読んだ感想を教えてください。(5段階評価)

1-1 本報告書の内容は分かりやすかったですか？ わかりにくい |—————| わかりやすい
1-2 本報告書の内容は充実していましたか？ 不足 |—————| 充実
1-3 本報告書の文章は読みやすかったですか？ 読みにくい |—————| 読みやすい
1-4 本報告書のデザイン、レイアウトはいかかでしたか？ 悪い |—————| 良い
1-5 本報告書のページ数は適当でしたか？ 少ない |—————| 多い
1-6 当社の取り組みについてご理解いただけましたか？ できない |—————| できる
1-7 当社の取り組みは評価できますか？ できない |—————| できる

Q2. 面白かったページや取り組みについての項目があれば教えてください。(複数回答可)

- | | | | |
|--------------------------------------|--|-----------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 表紙 | <input type="checkbox"/> 目次 | <input type="checkbox"/> トップメッセージ | <input type="checkbox"/> ビジョン 2025 |
| <input type="checkbox"/> 事業背景 | <input type="checkbox"/> 事業俯瞰図 | <input type="checkbox"/> 事業紹介 | <input type="checkbox"/> 特集1 (環境分析部) |
| <input type="checkbox"/> 特集2 (ECW工法) | <input type="checkbox"/> 特集3 (女性社員の活躍) | <input type="checkbox"/> 環境マネジメント | <input type="checkbox"/> マ斯巴ランス |
| <input type="checkbox"/> 環境測定データ | <input type="checkbox"/> 環境負荷低減への取り組み | <input type="checkbox"/> コンプライアンス | <input type="checkbox"/> 教育 |
| <input type="checkbox"/> 安全衛生 | <input type="checkbox"/> 働きやすい職場づくり | <input type="checkbox"/> 社会貢献活動 | <input type="checkbox"/> コミュニケーション |

Q3. 本報告書に対するご意見、ご感想等ご記入ください。

Q4. 当社およびグループ会社に対するご意見、ご要望等ご記入ください。

当社資料 (会社案内パンフレット等) 送付希望の方は以下の記入をお願いいたします。

お名前 (フリガナ)

会社名 (フリガナ)

ご住所

〒

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。



株式会社 ダイセキ環境ソリューション
Daiseki Eco. Solution Co.,Ltd.